

資利 秀貞 代崎 田代

# 延岡案内記

202584-000-6

特69-135

延岡案内記

田代 秀資

松崎 貞利 / 編

M44

EDE-0136



富高文華堂發行

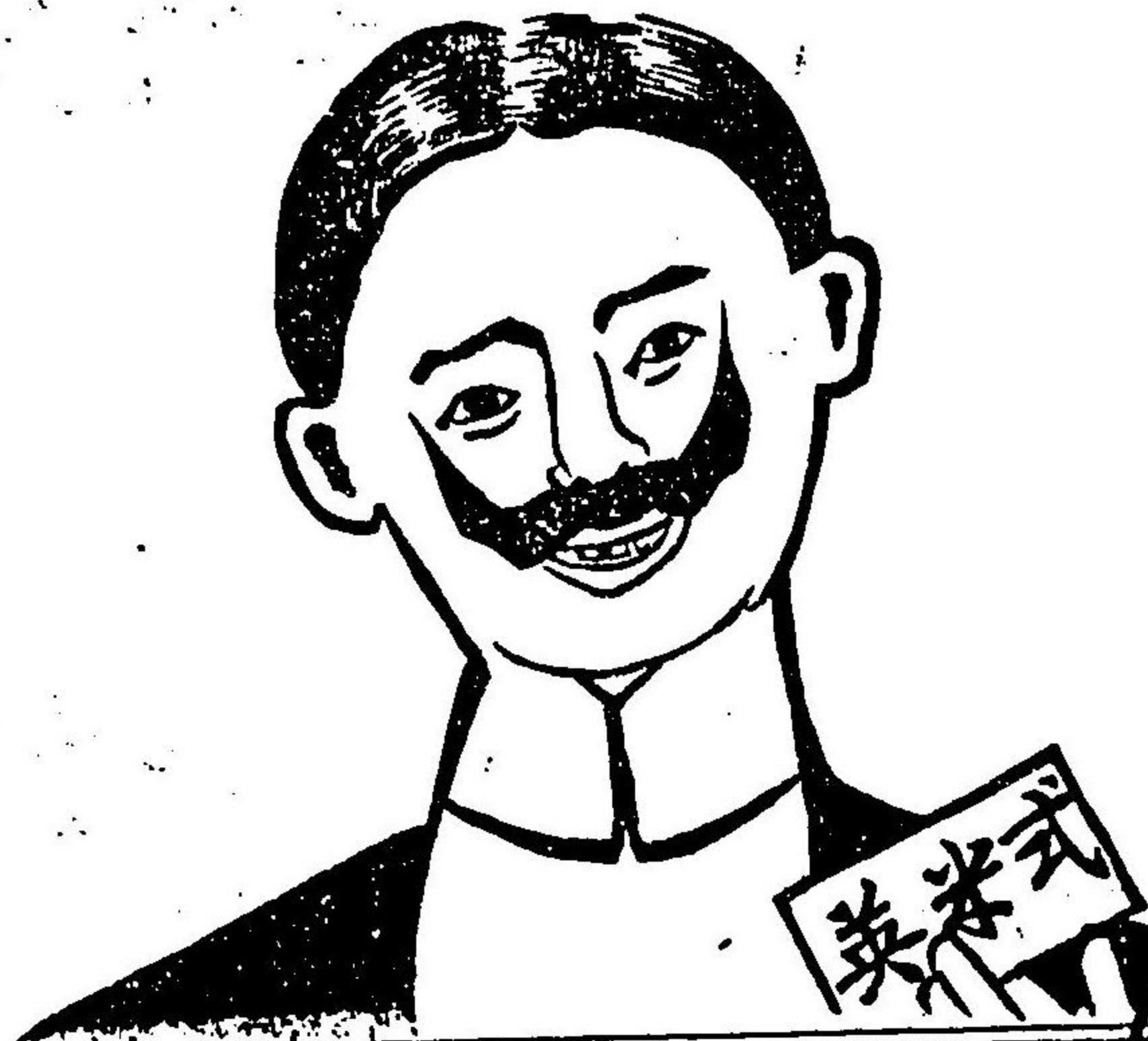
302



延岡南町警察署西角

廣田<sup>高</sup>等洋服調進所<sup>并</sup>附屬品商

電界(07)



明治  
19. 8. 13  
内



英米式高等洋服  
并附屬品商

日向延岡郵便局前

高亭見洋服店  
キビヤ  
(電界夕カ)



大阪高松株會社吉呂荷客板店

土呂港

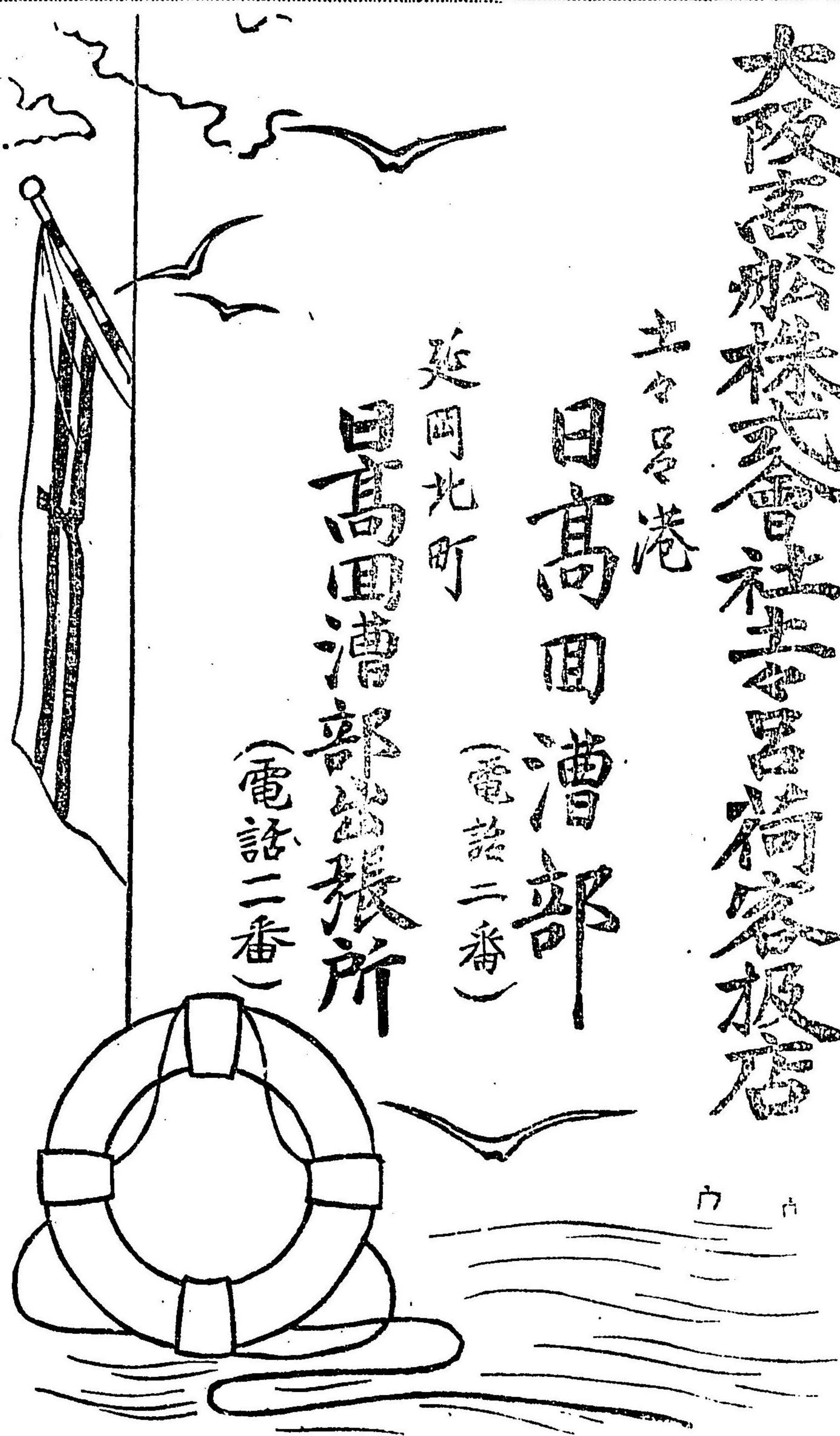
日高田漕部

(電話二番)

延岡北町

日高田漕部出張所

(電話二番)



和洋鐵鋼類悉比白

並道路用

新築用

金物一切卸

鑄物類七大小洋釘

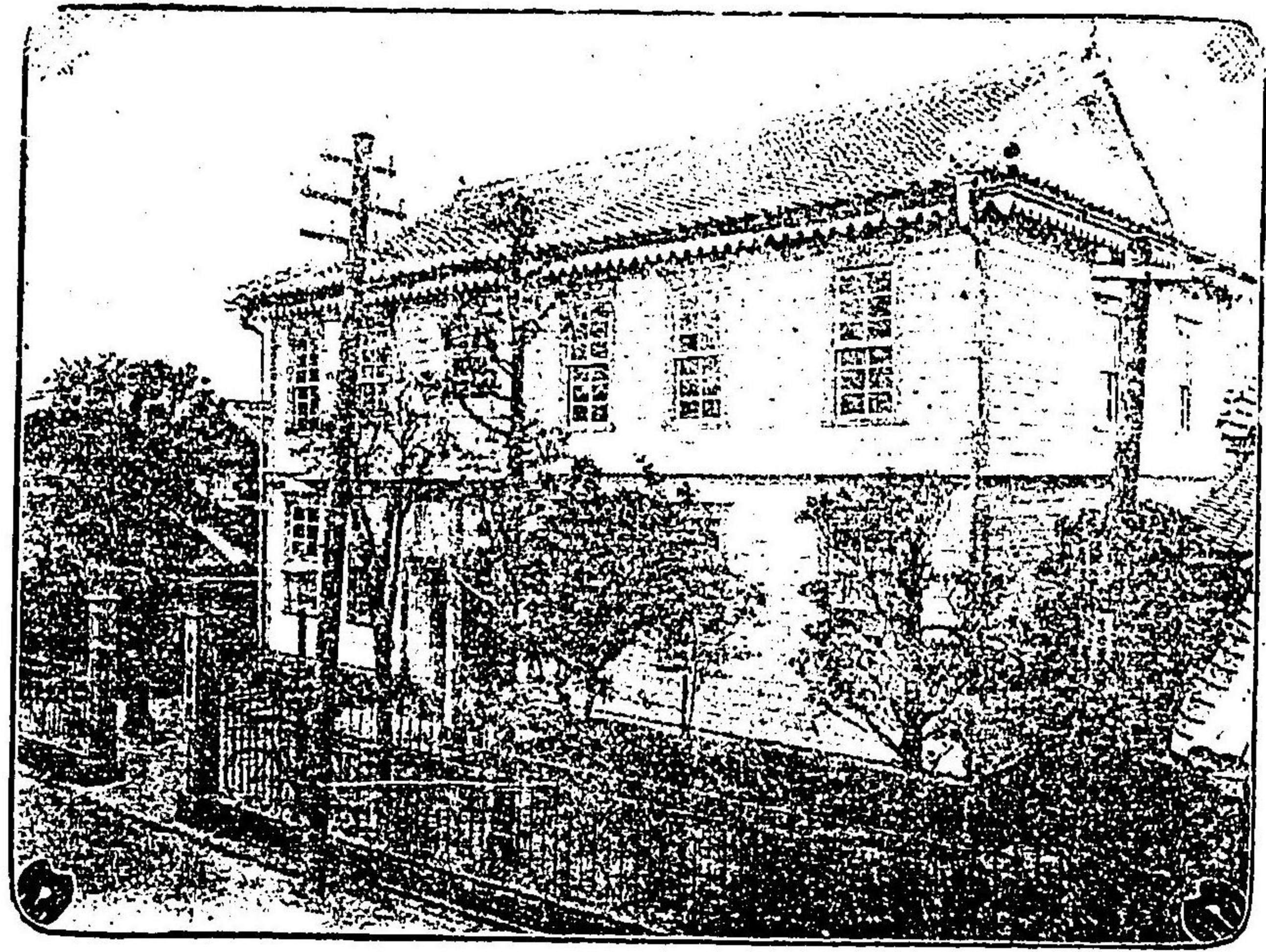
小

諸金物砥石類馬蹄釘

賣

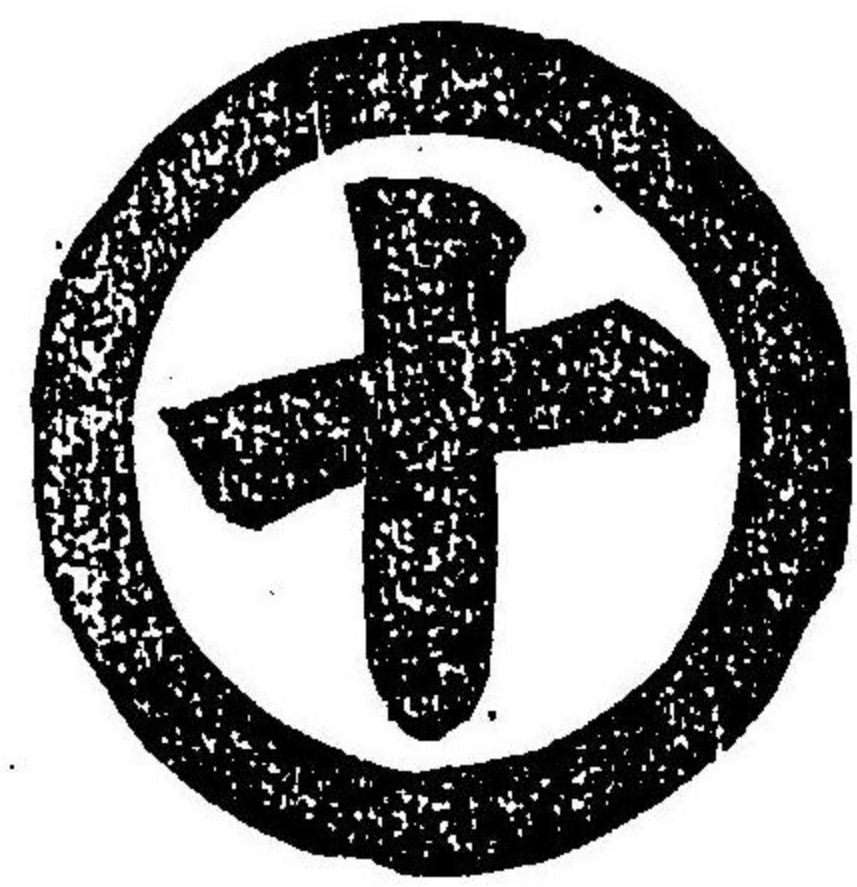
延岡北町延岡道

中 仲摩宗次郎商店



延岡南町  
岩切醫院

(電話三十二番)

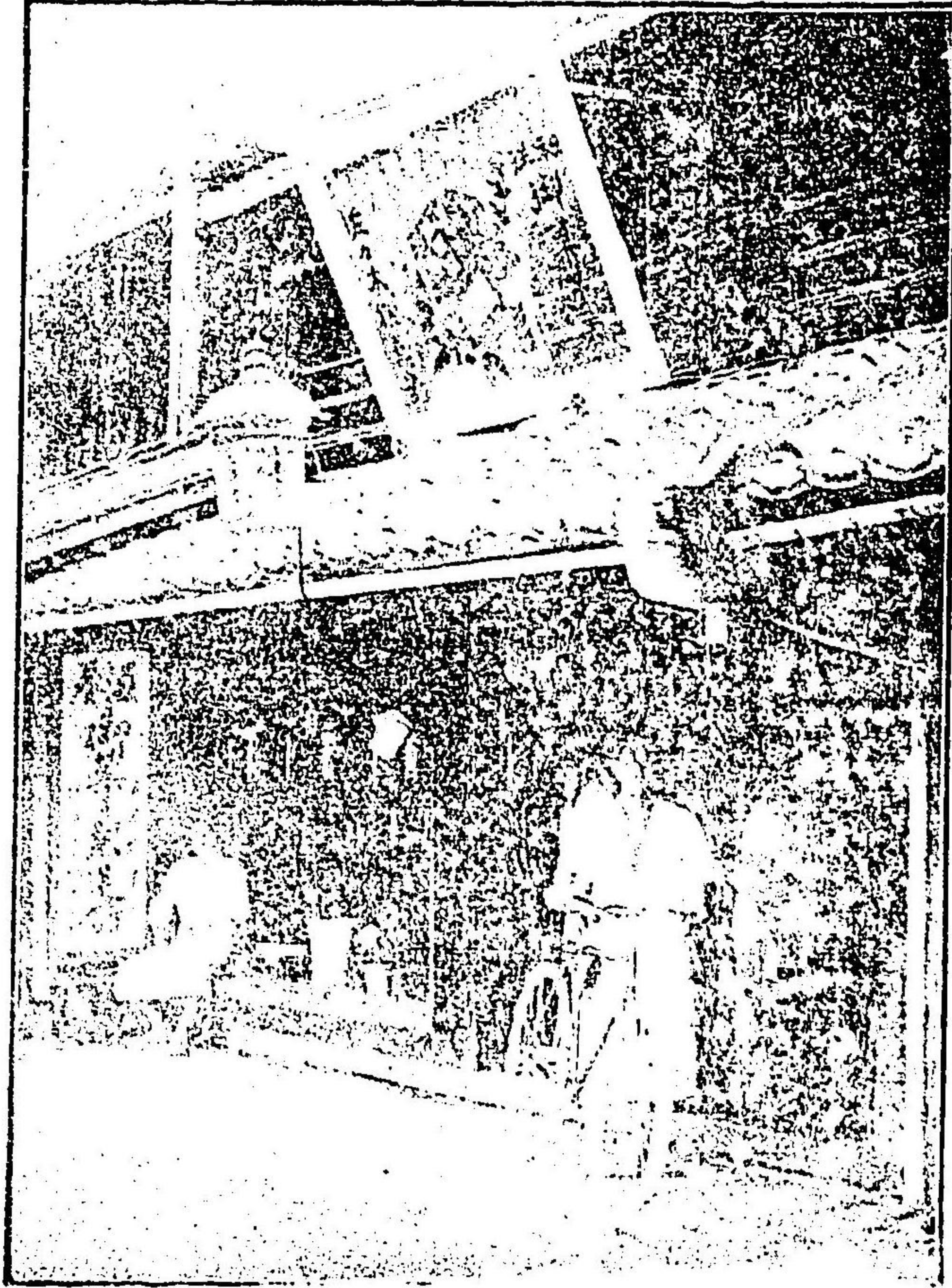


諸產物買入  
諸公債株券賣買  
古金銀古銅買入

山積久助

延岡柳沢町三番七番

電話五二番  
電界(ヤマツ)



山產物高  
 獨油礮迭業  
 運送業  
 延岡東海港  
 今思本庄吉



師術技刷印誌本

# 漸新活字

舶來、和洋紙共ニ阪神地方ヨ

リ仕人澤山有之極テ安價

自由ニ使用仕候



吳服老物

津屋物高

宛至中町

井筒屋呉服店

電話二六番

山產物高  
酒類醸造業

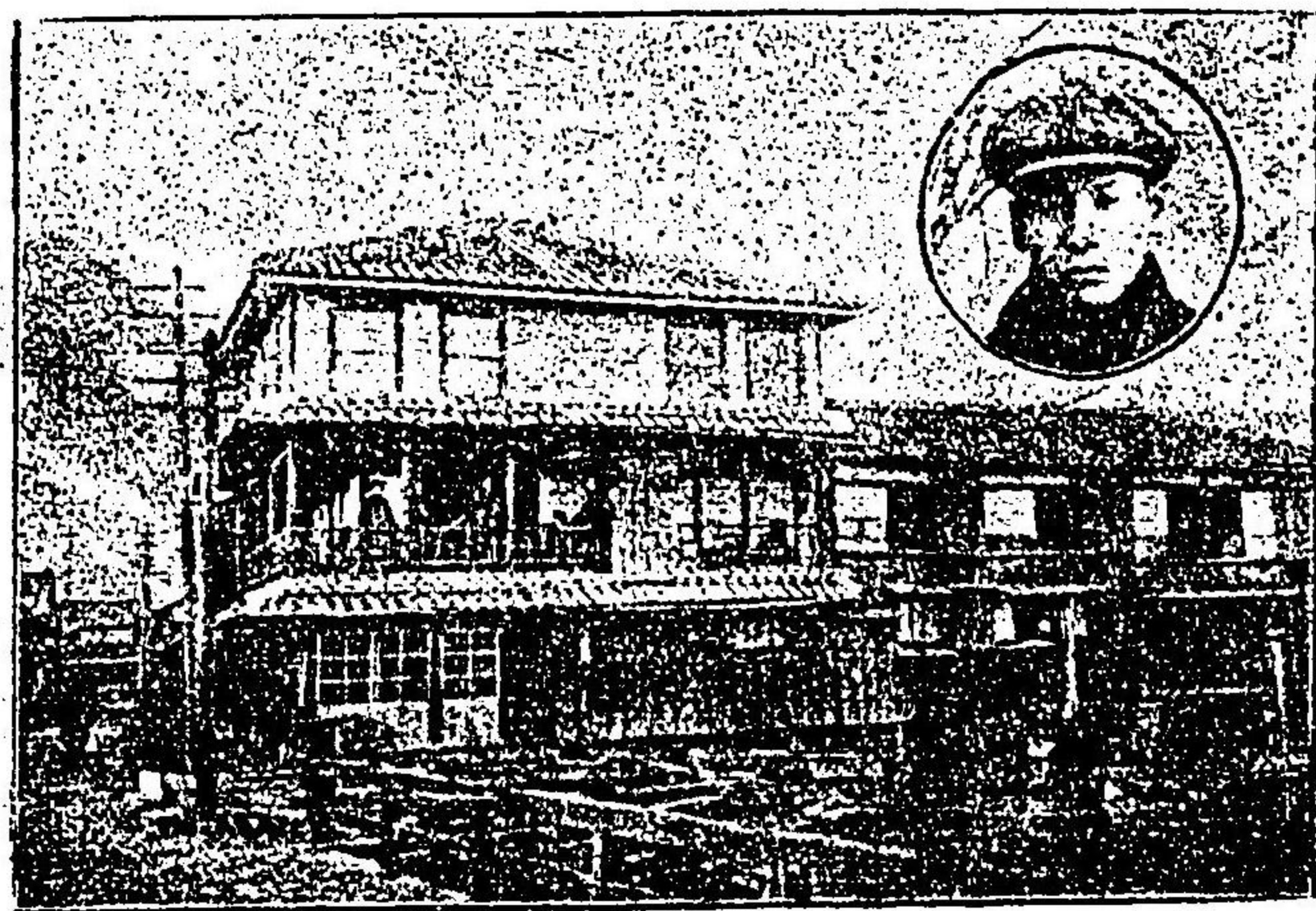
運送

見

延平北町高嶺名見屋

小田清兵衛

電話(七番) 電掛(七番)



日野屋旅館本店

今日野屋旅館

店本 延岡南町

電話(七番)電掛(七)

店支 延岡本小路

電話架設中

磯貝辯護士事務所

延岡北町(電話十五番)

若林辯護士事務所

延岡中町(電話十番)

甲斐辯護士事務所

延岡中町(電話五十八番)

(順八口)

延岡父

標商



元造製

延岡

赤田商店

中町





松井悦治


釀造元

宮崎縣延岡市園町


MARK 麵

TRADE 油

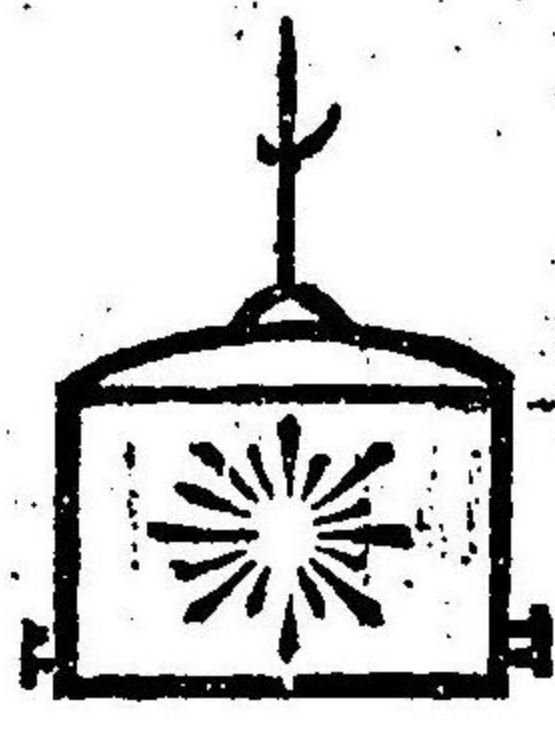




アルカリ肥料株式会社



大日本人造肥料株式会社



延岡元町  
石油株式会社

特約販賣店 塩月徳三郎



主 崇 蔭 錫 冠  
下 開 學 政 廉 貞 節 子

標

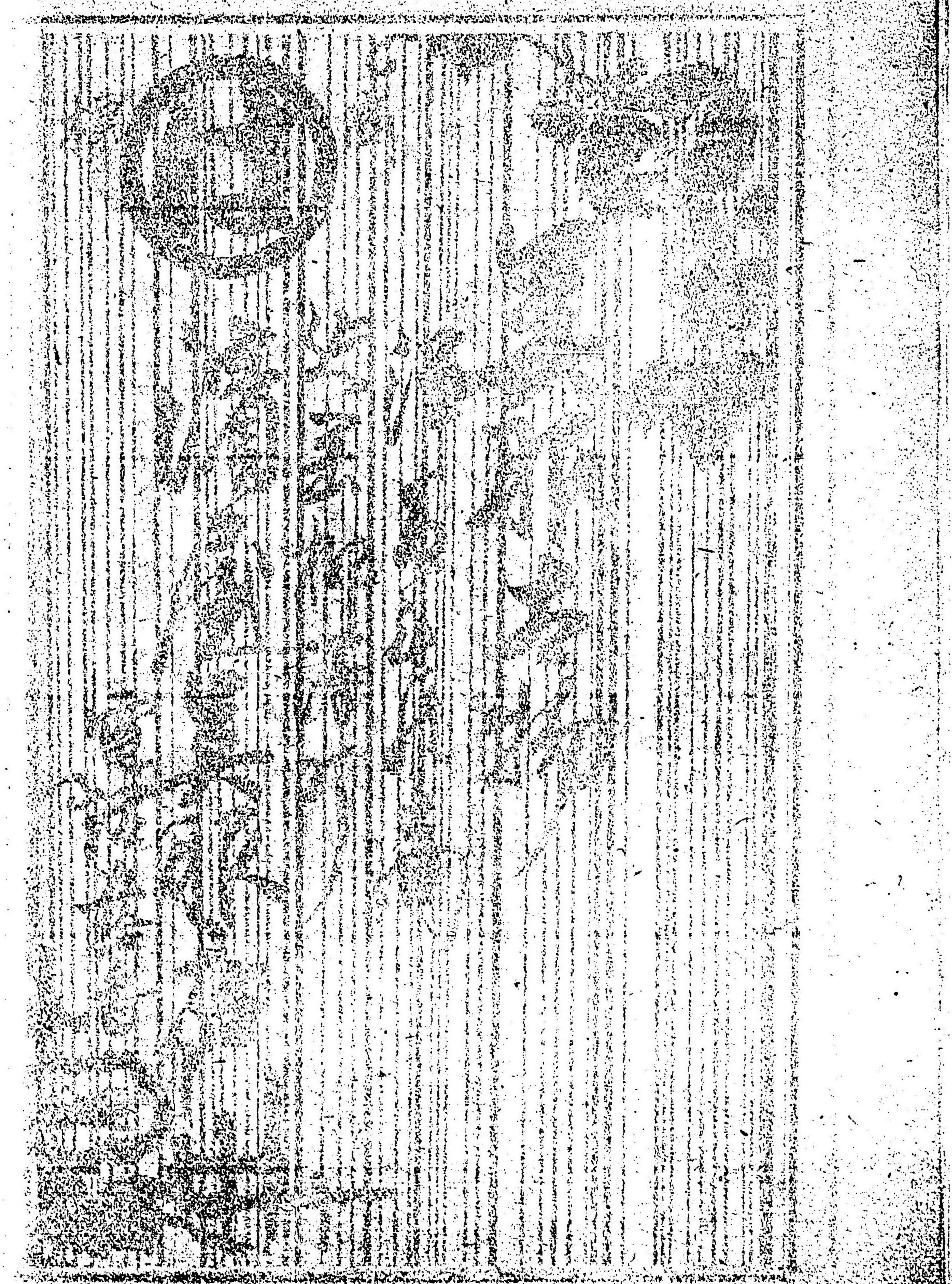


商

廣東省城西門外  
 廣生堂藥行  
 經理人 李 德 全  
 電話 二 四 八 〇  
 廣州 西關 第十甫  
 廣生堂藥行  
 經理人 李 德 全  
 電話 二 四 八 〇  
 廣州 西關 第十甫



延岡哲藩主  
子爵藤内政學閣下





君 輔之胸林若 長議會縣



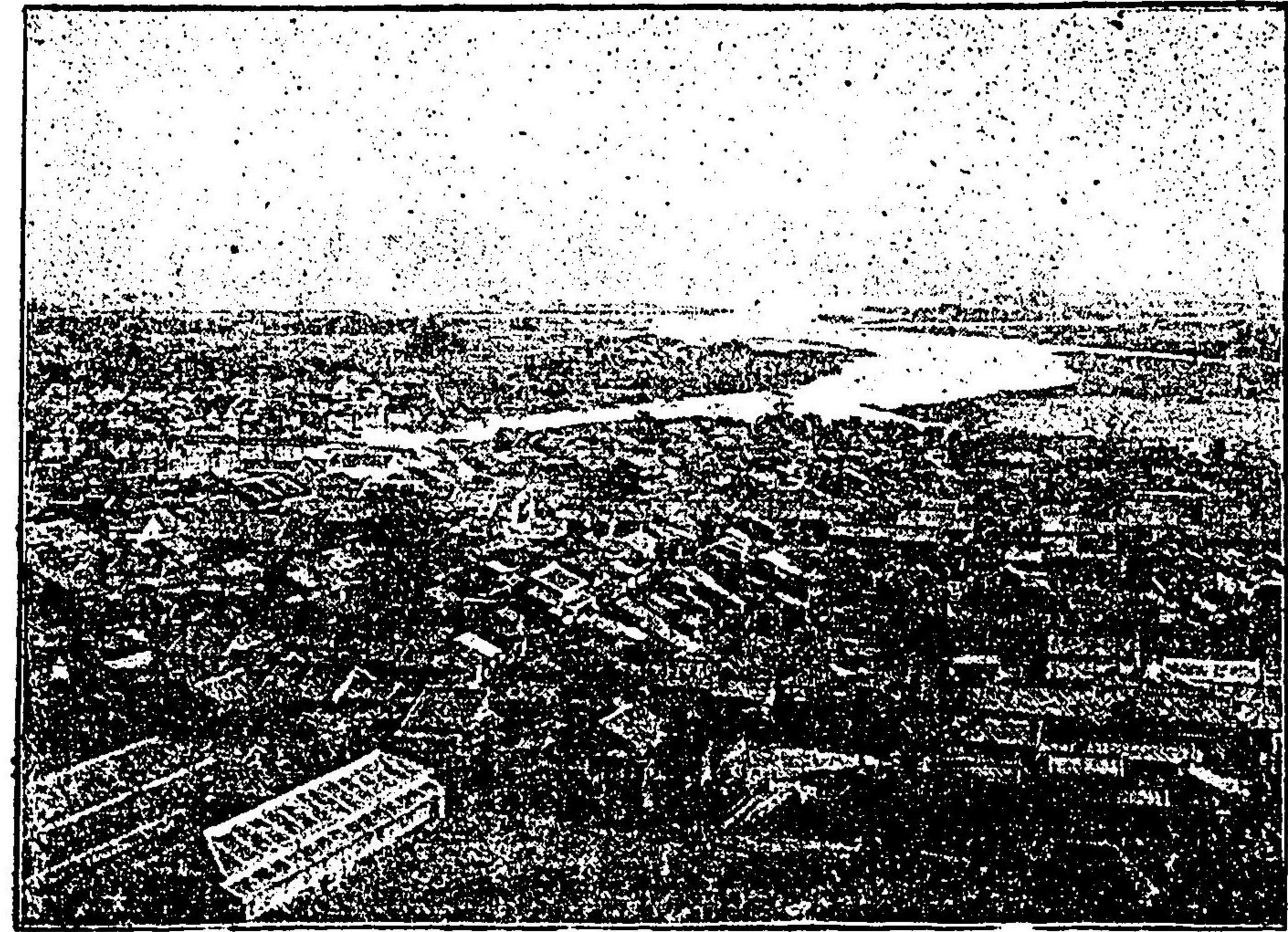
君 市龜高日 業産水



君 市善斐甲 員議會縣



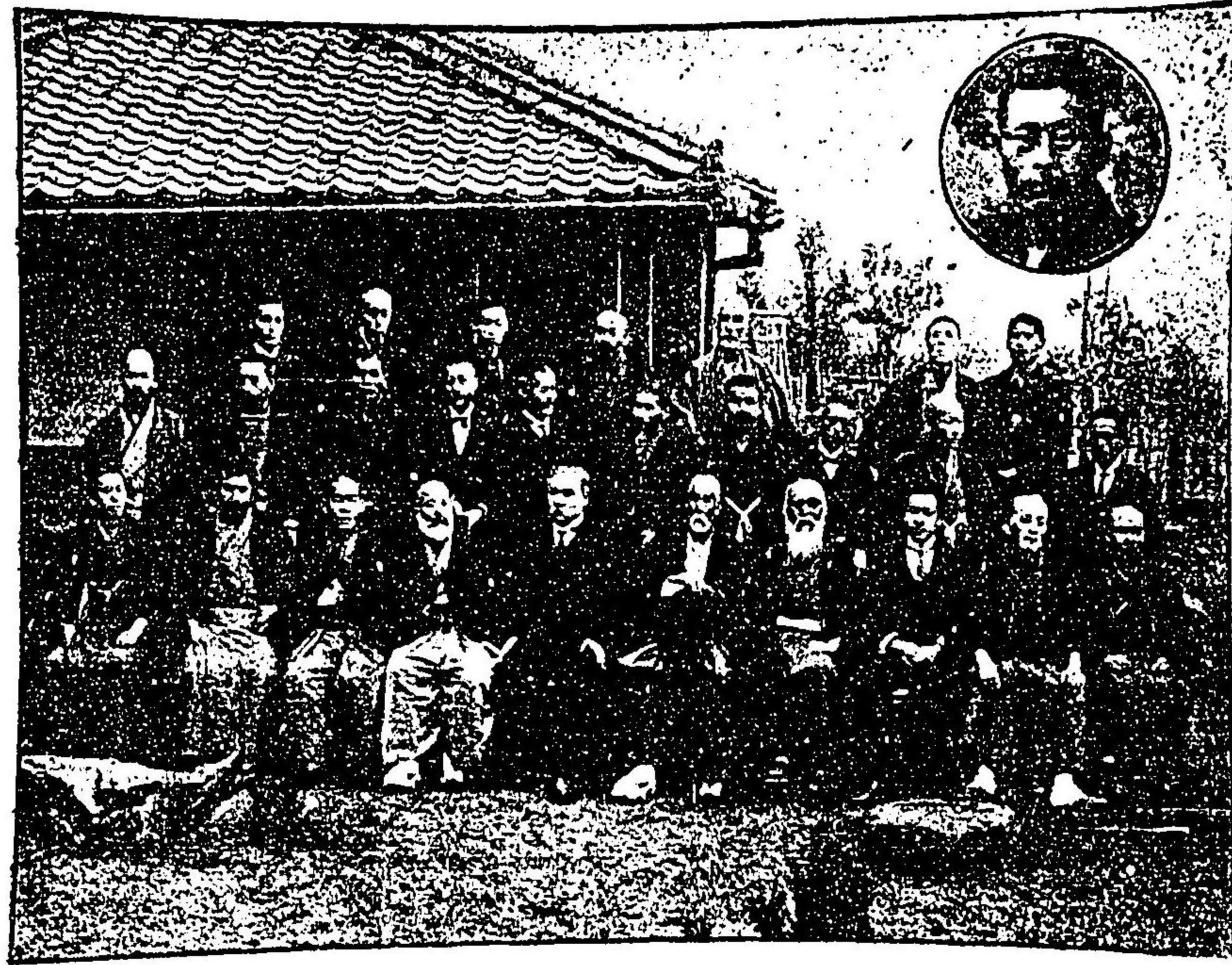
君 那二大貝磯 長議副會縣



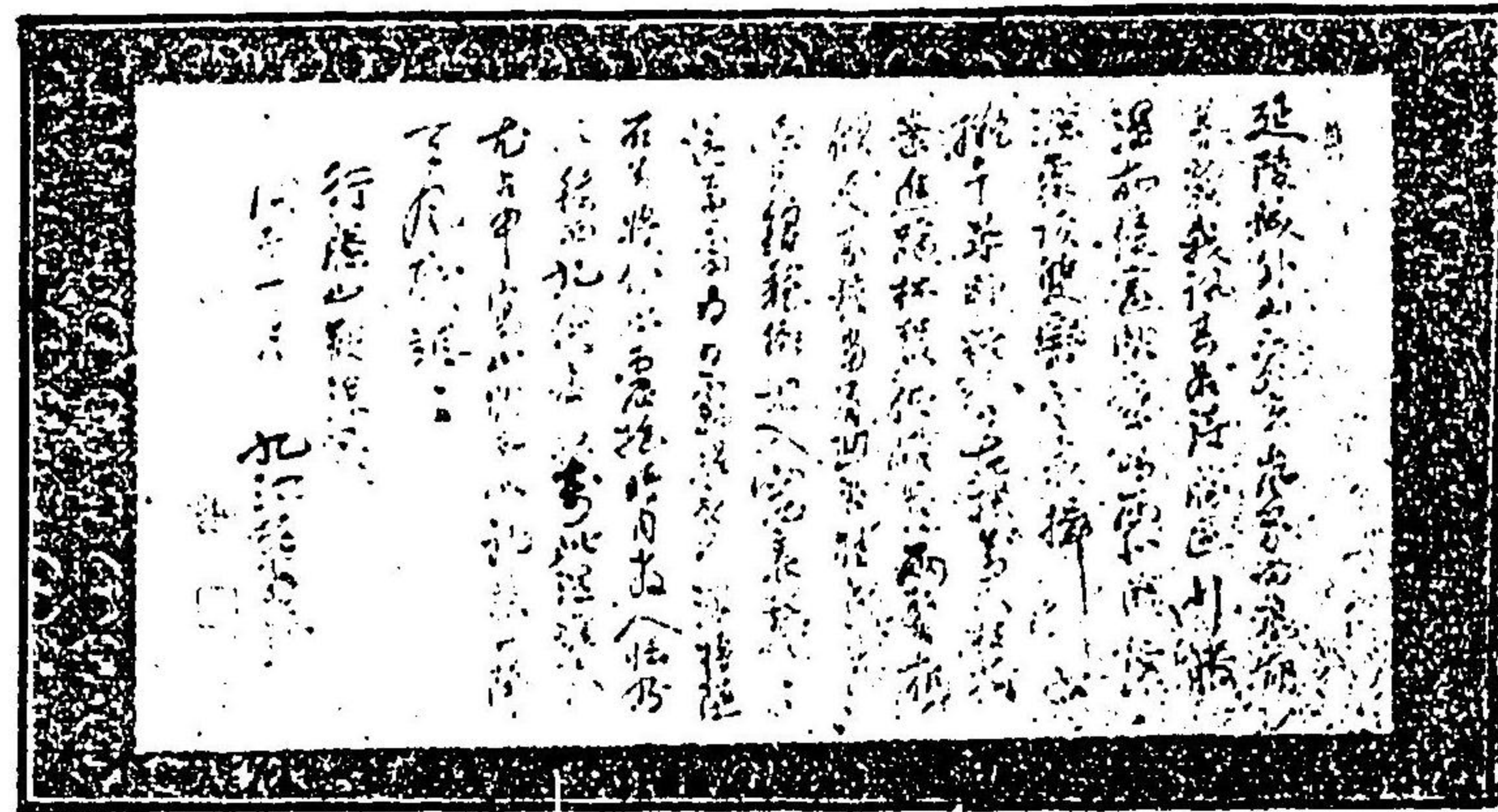
ひ 望 を 街 市 岡 延 り 上 園 公 井 龜



延岡本小路通りの櫻花



野三井夕郎君に會する延岡附近有志の家

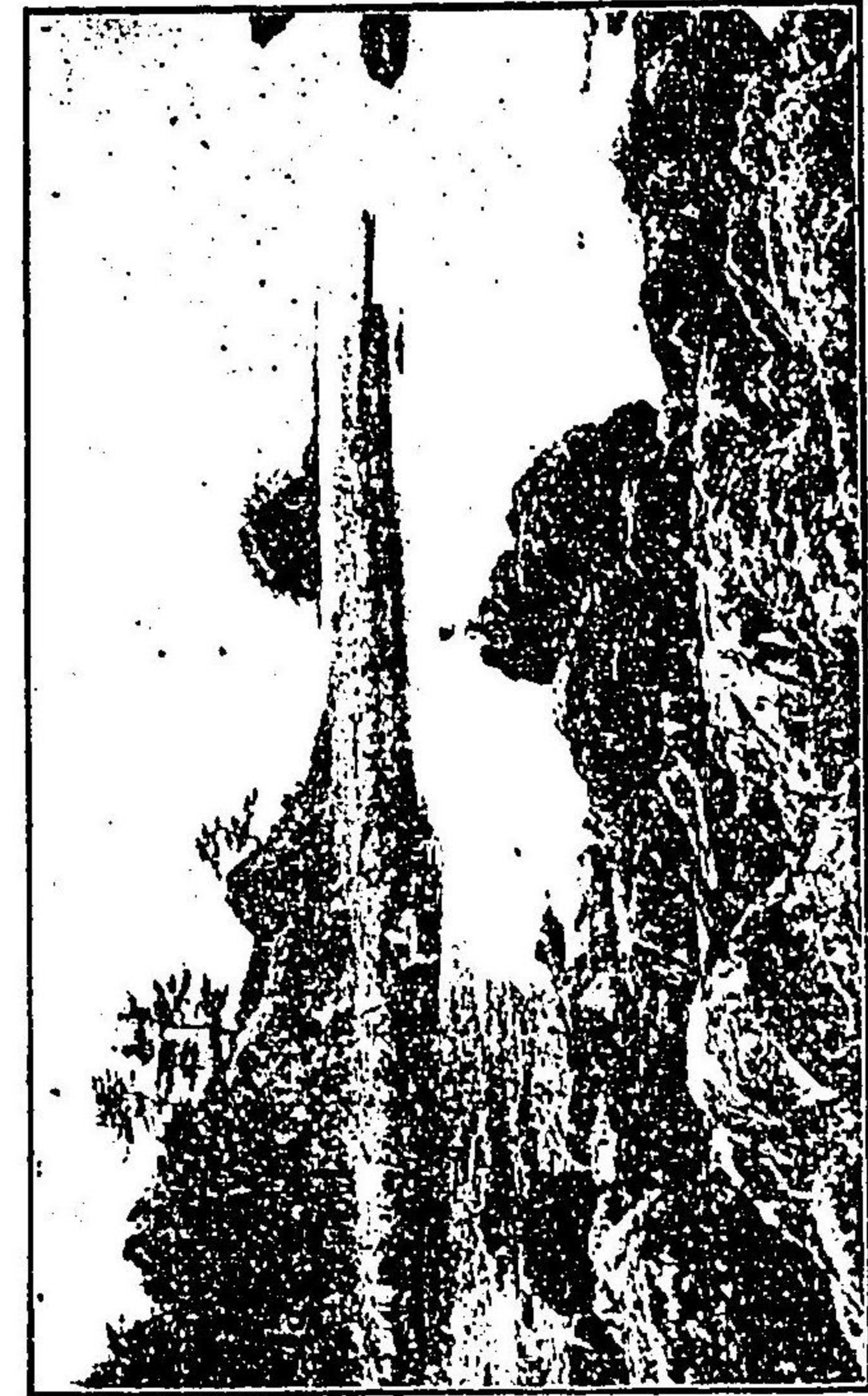


南方村 甲斐長藏君藏

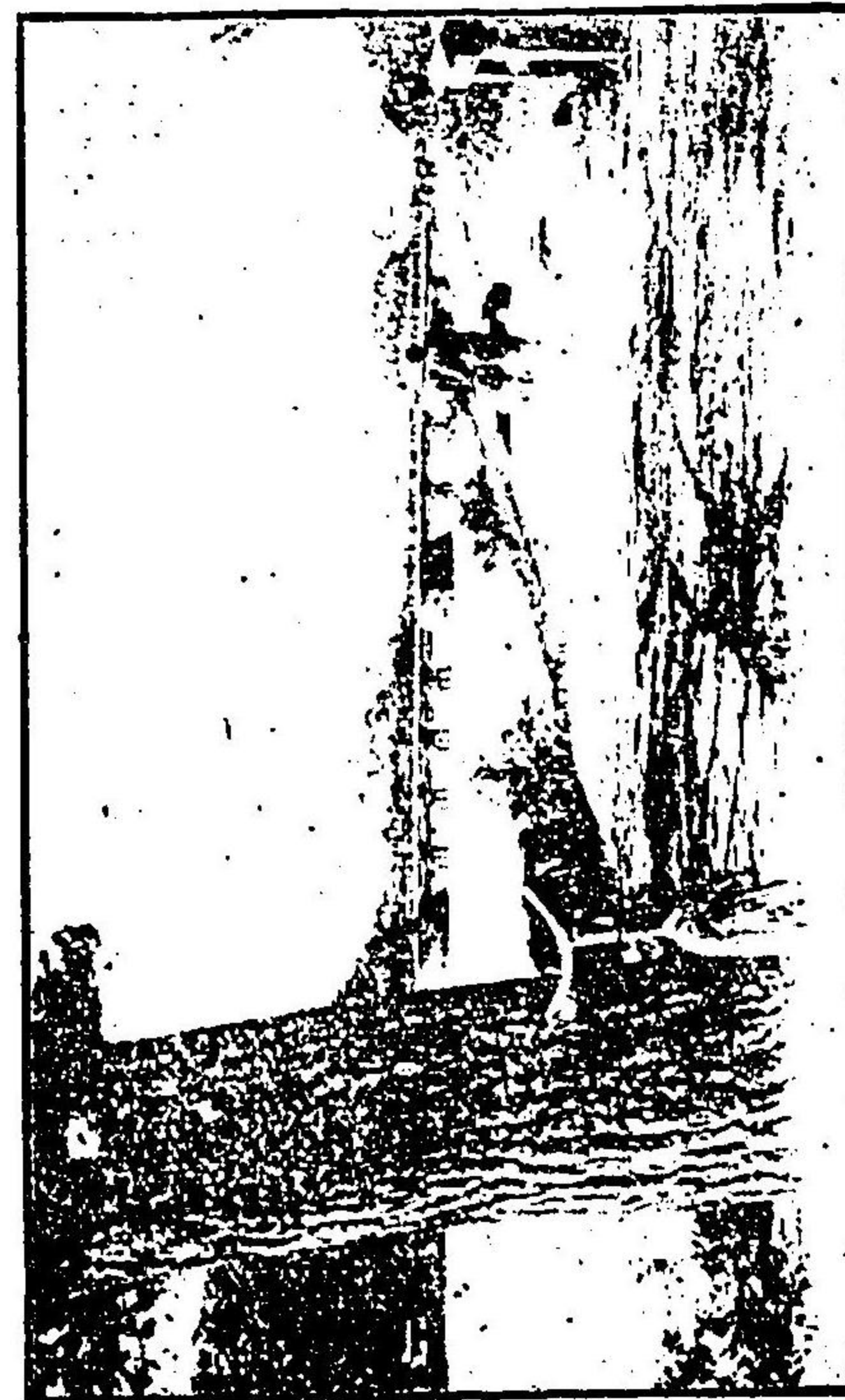
方財島より東海港頭を望む



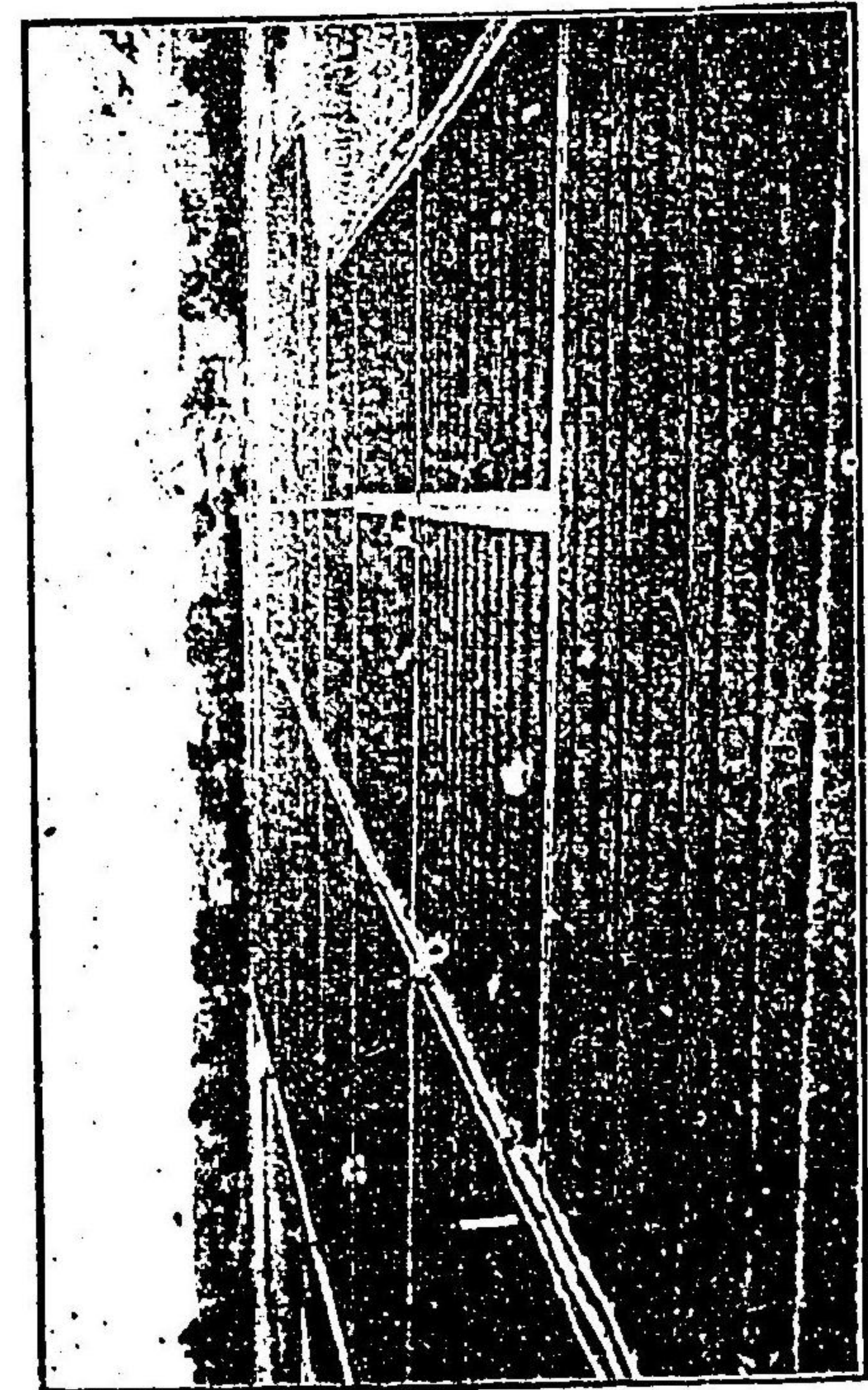
赤水千疊敷の勝景



富高村汐見橋の遠望



恒富村恒富の共同苗代





山物産商 久積助君



山物産商 黒木庄吉君



洋服商 廣田房吉君



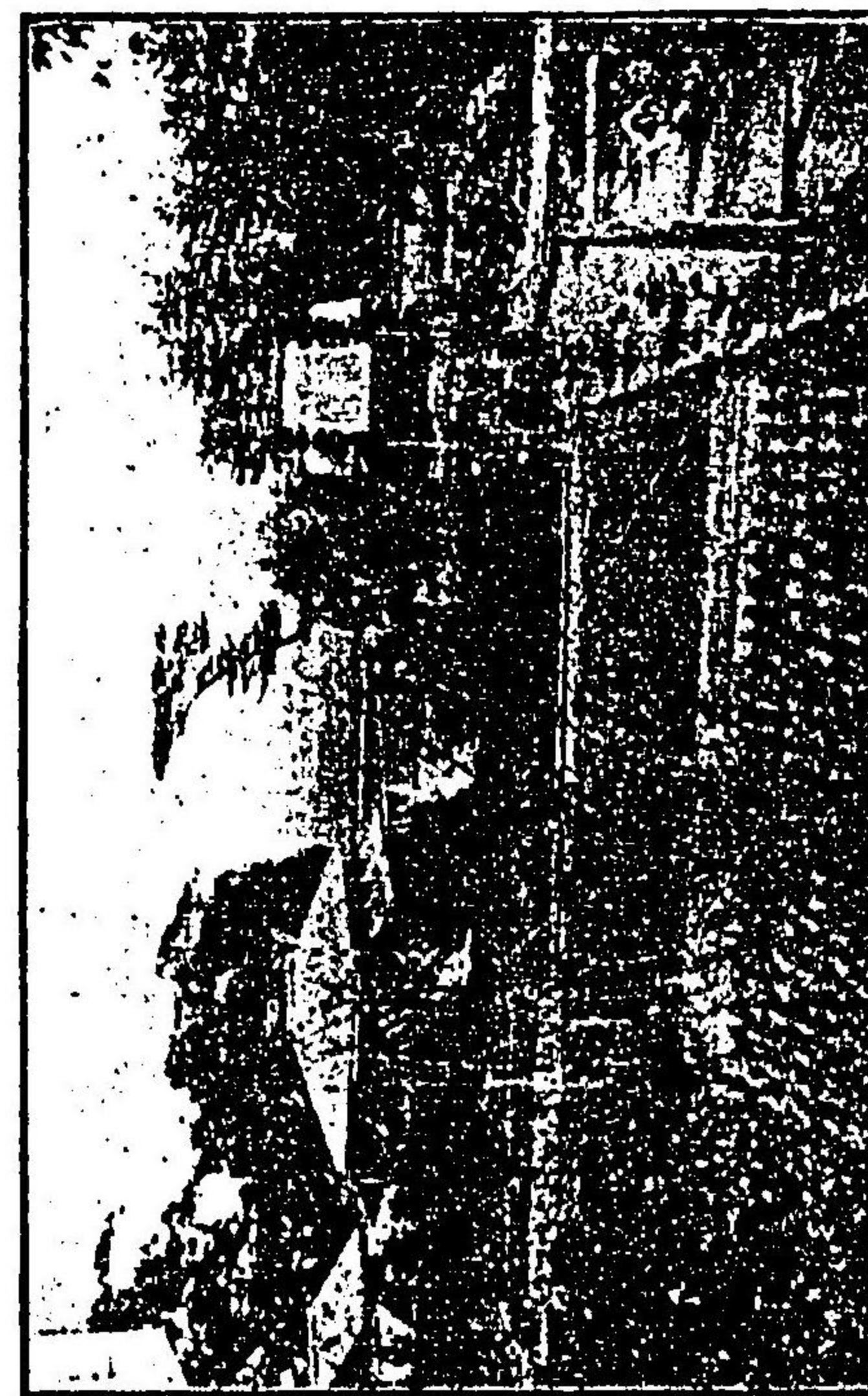
製紙業 四倉徳三君



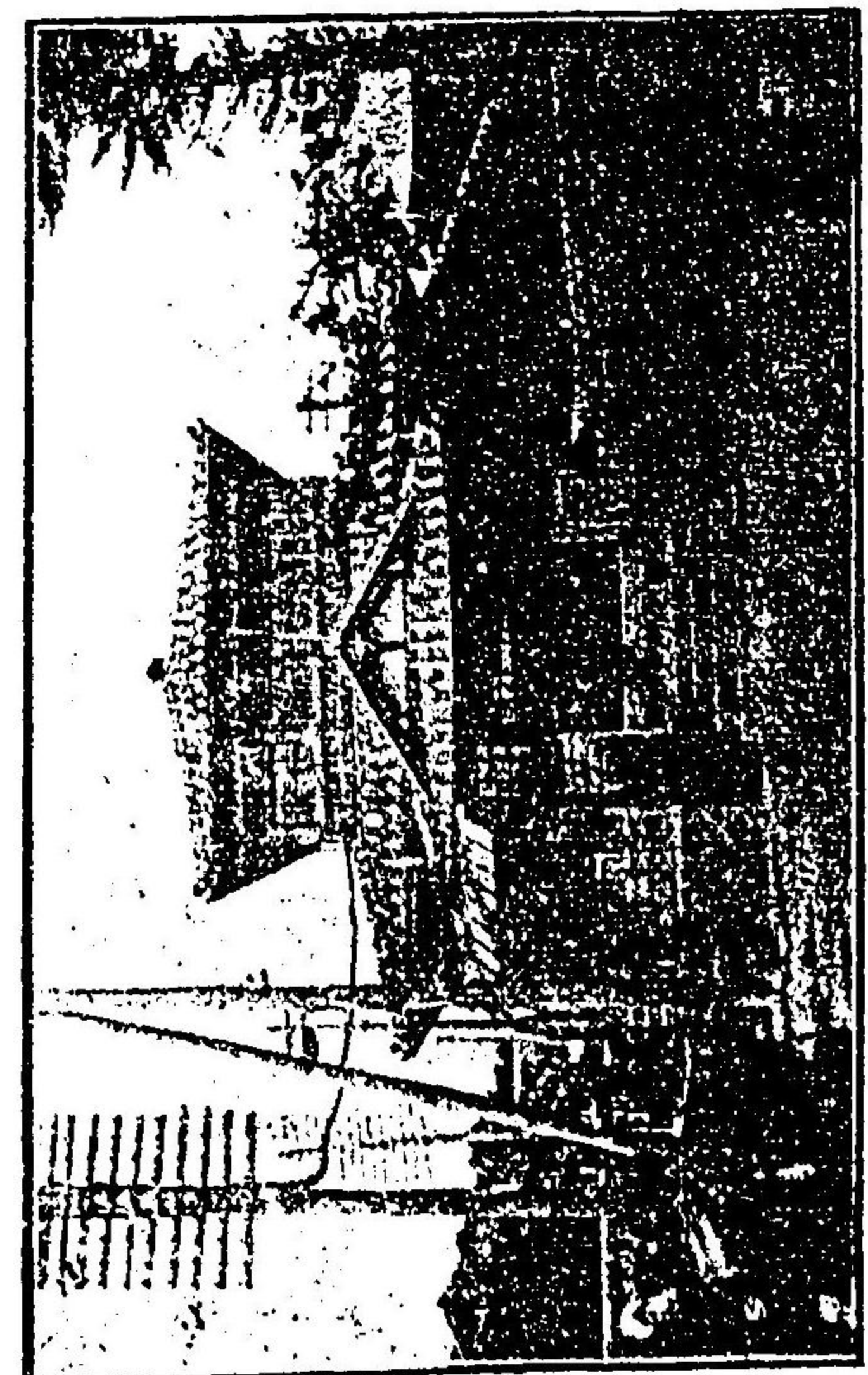
所役郡村日東



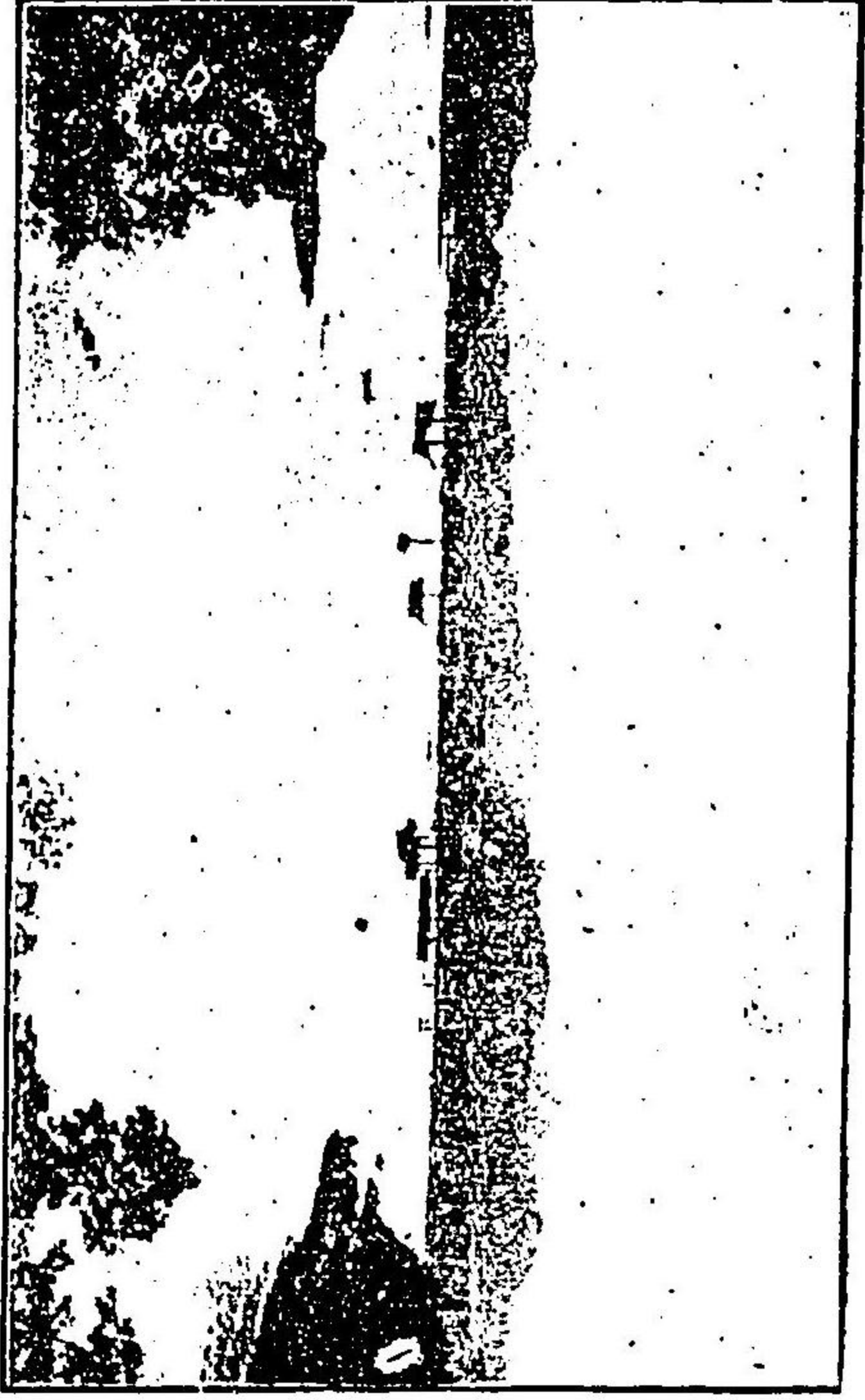
署警察岡延



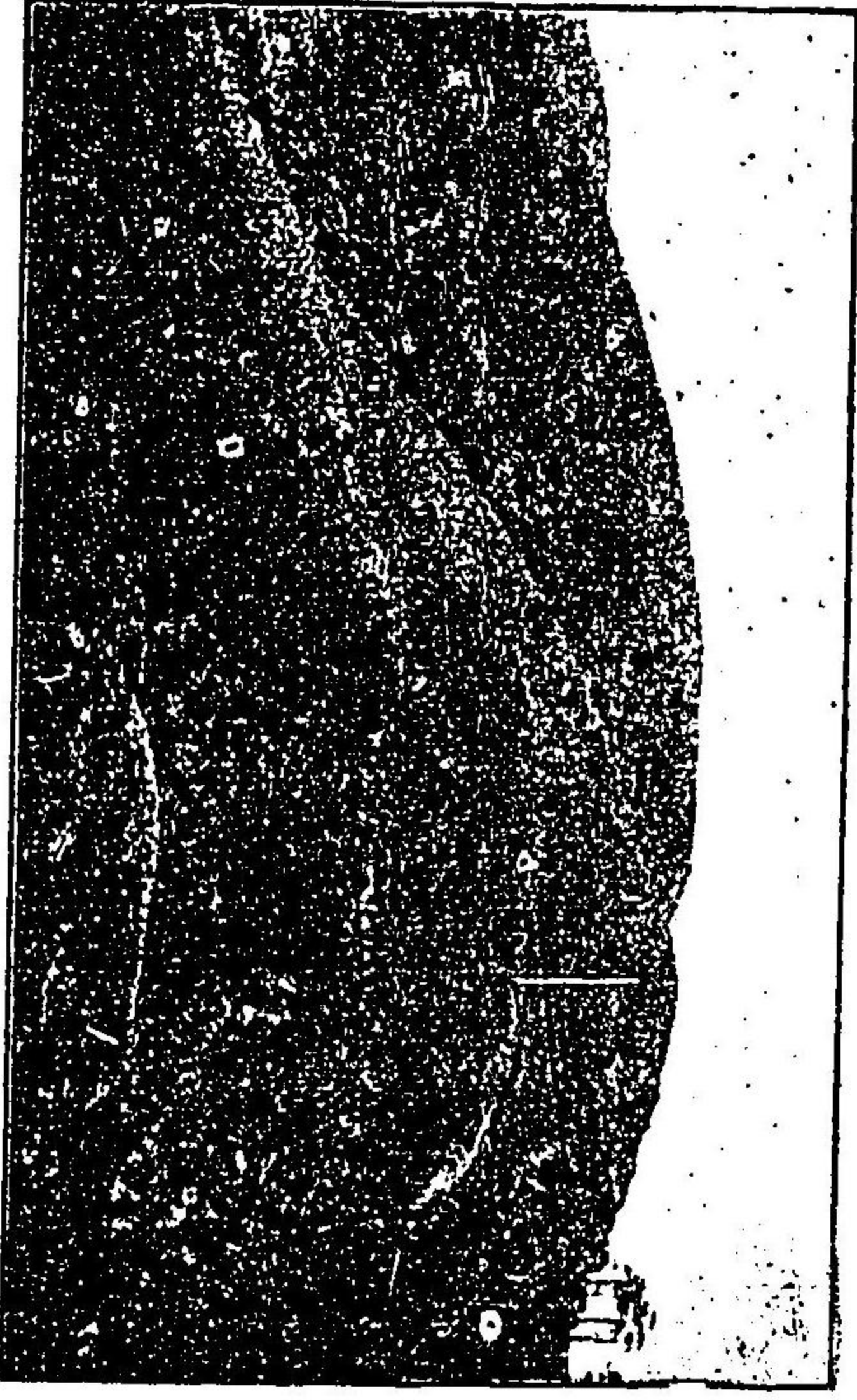
園公岡愛



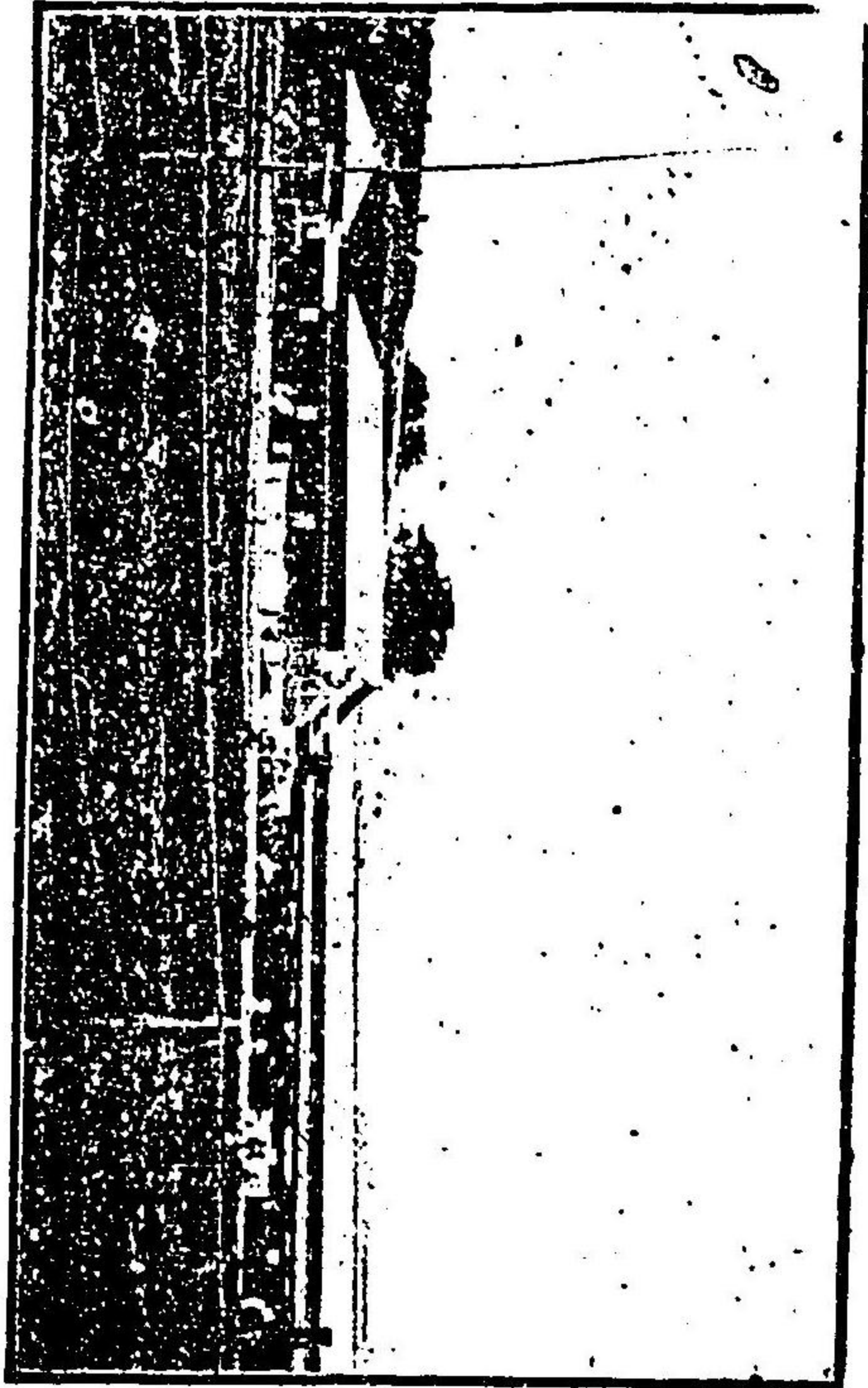
局便郵岡延



土々呂港



東曰杵那々有造林第七林班



延岡中學校運動場



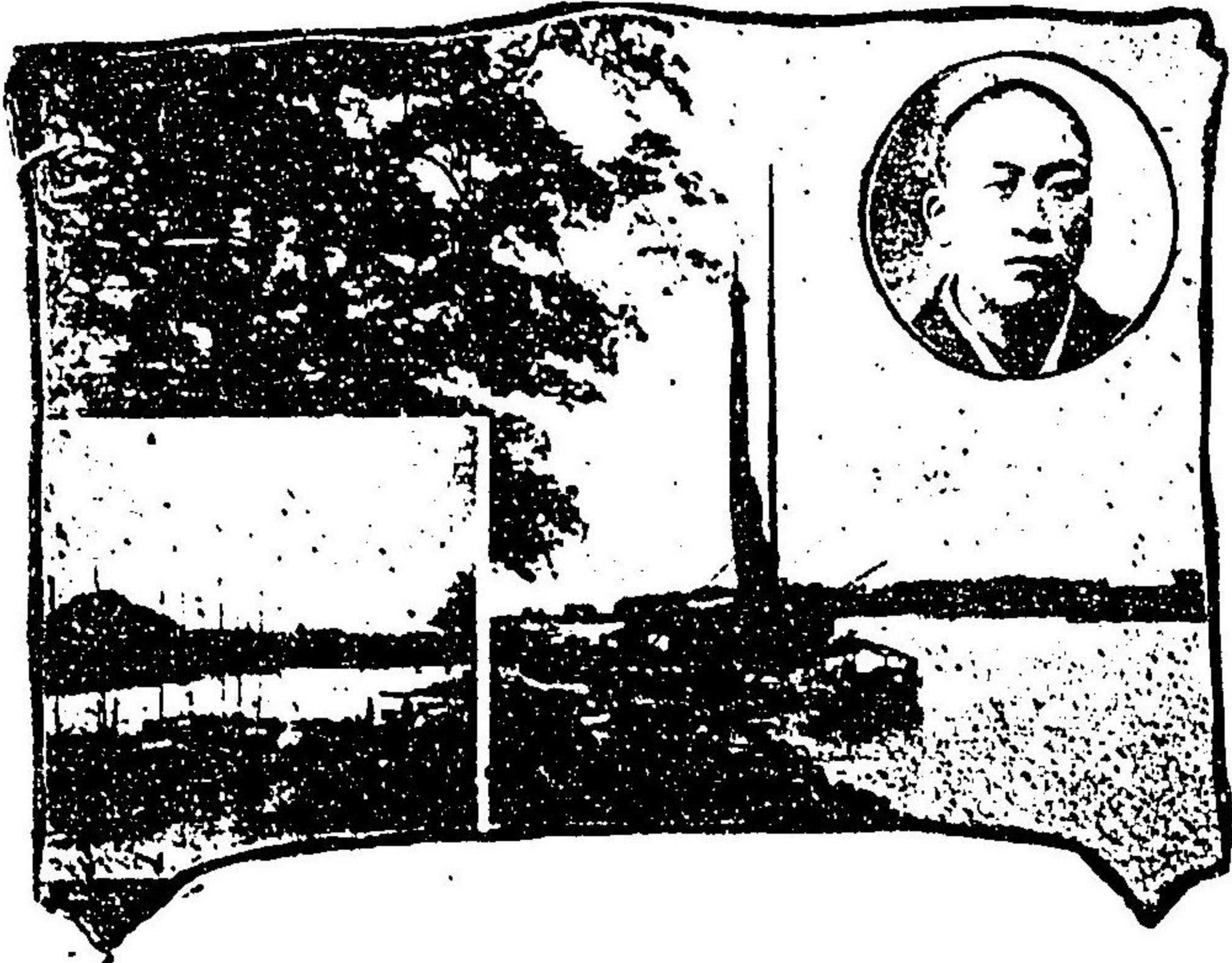
行勝の瀧



五ヶ瀬川の遊舟と汐干狩



五ヶ瀬川



本誌の材料を彫刻したる石原舟波君



君治力野矢 長合組衆同炭木向日



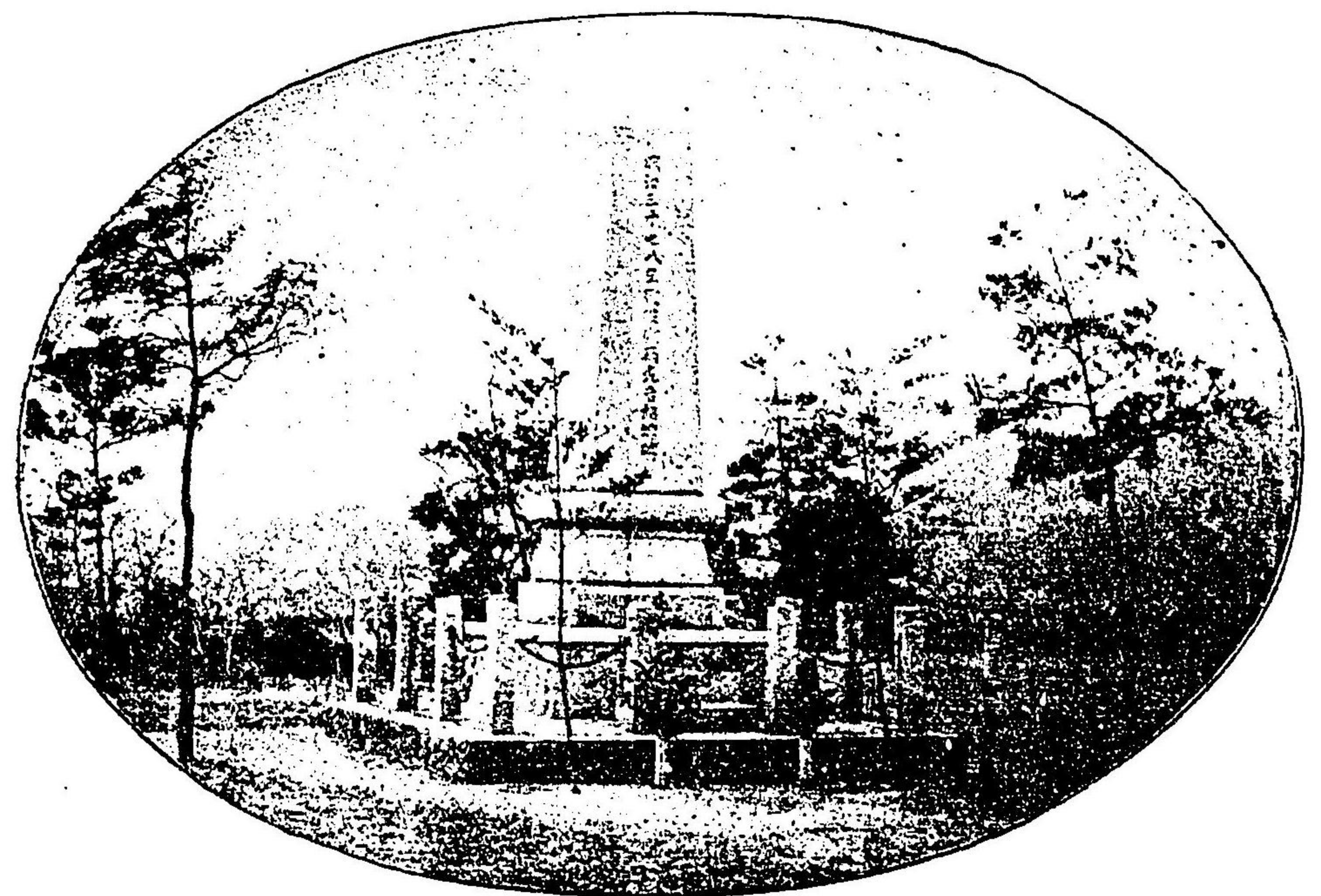
君意正宅三家行銀



君彌金藤加 長合組馬牛産郡杵白東



君衛兵五 谷 長合組衆同材木向日

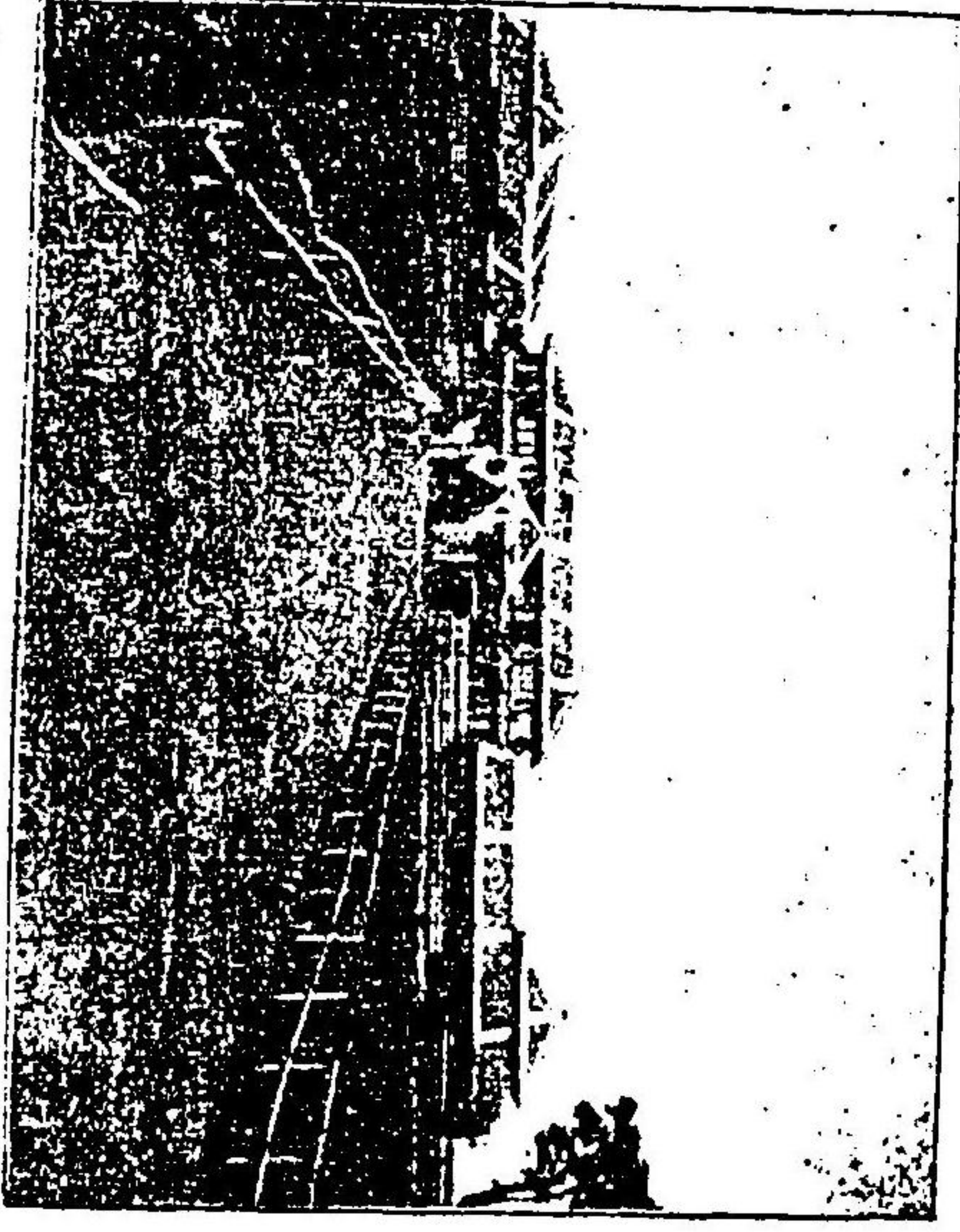


(設建園公井組) 碑魂招者死病戦役戦露日



踊 鼓 太 白 物 名





垣富尋常高等小學校



延岡尋常高等小學校



日平鋼山製煉所



日半銅山事務所及其附近

宮崎縣立延岡中學校



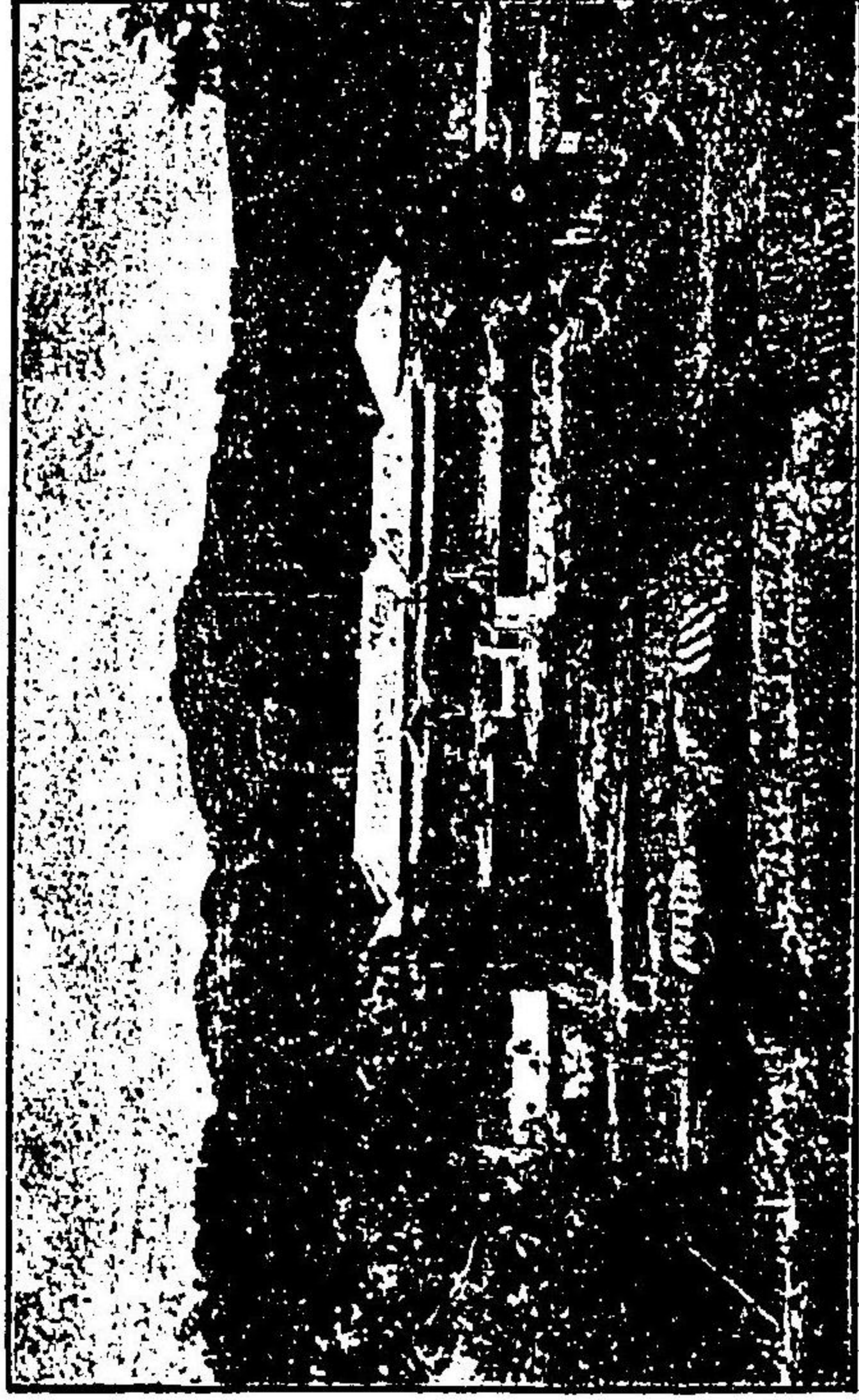
東海港口



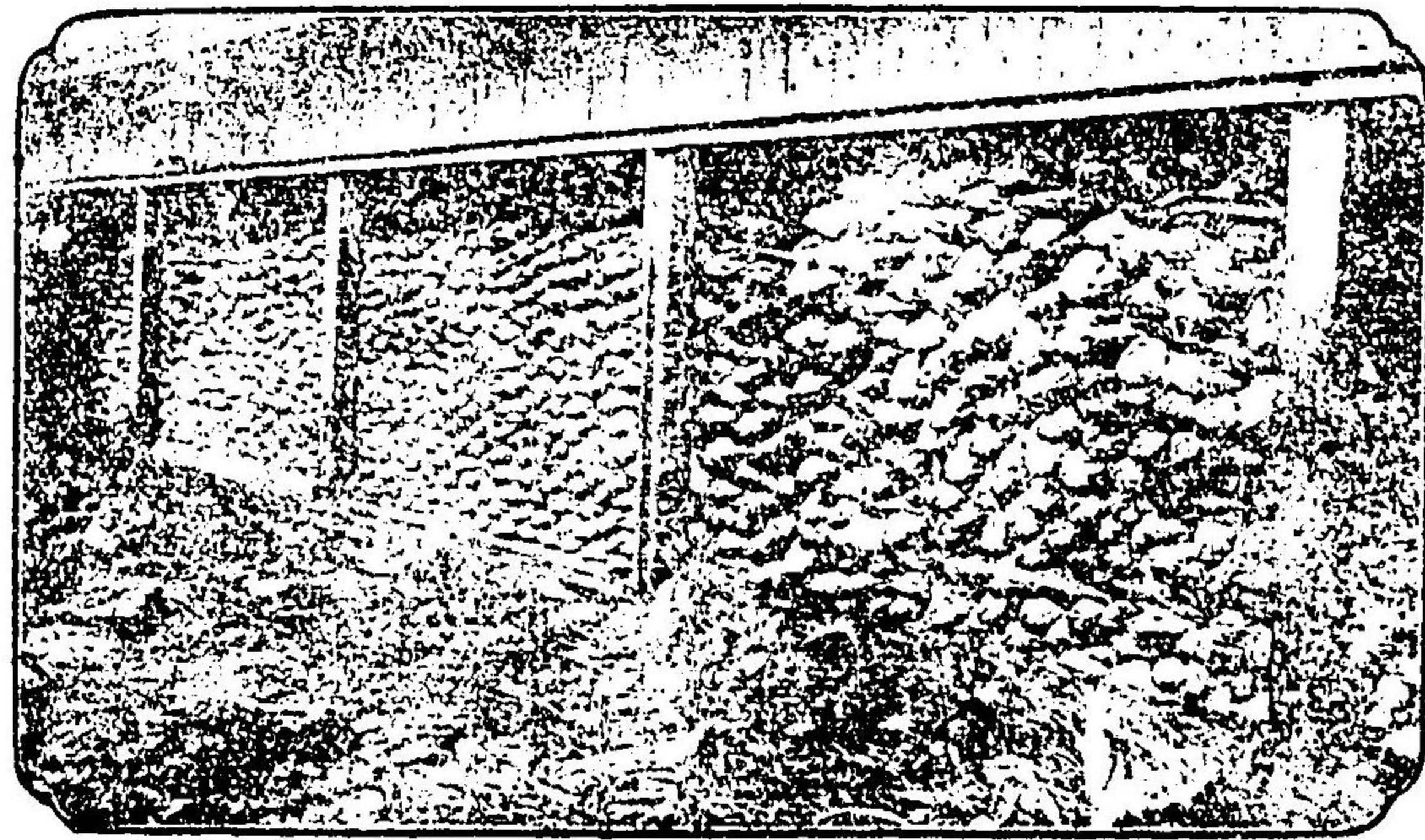
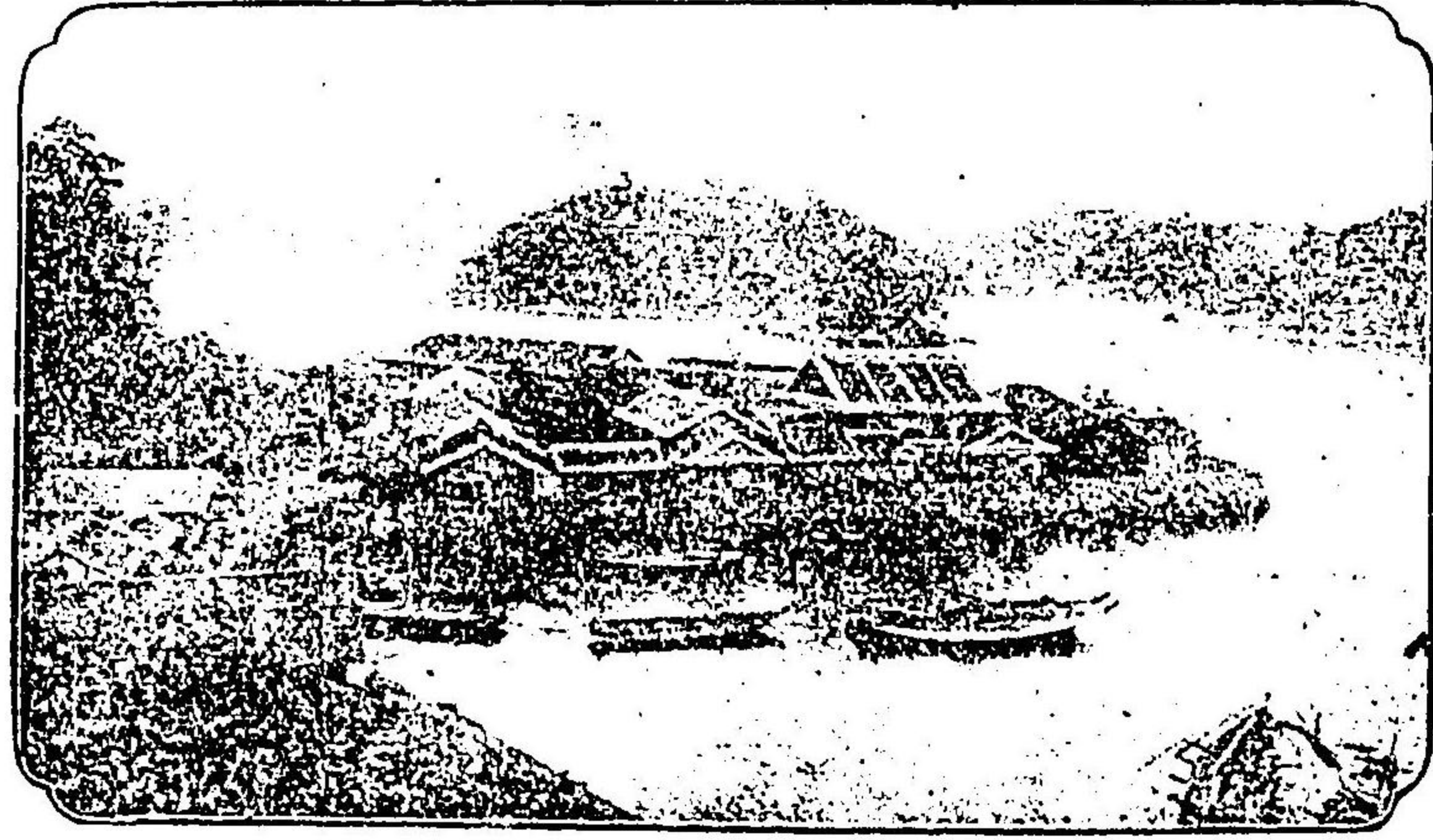
北川村長井に於ける産駒の集合



私立延岡高等女學校及女子職業學校

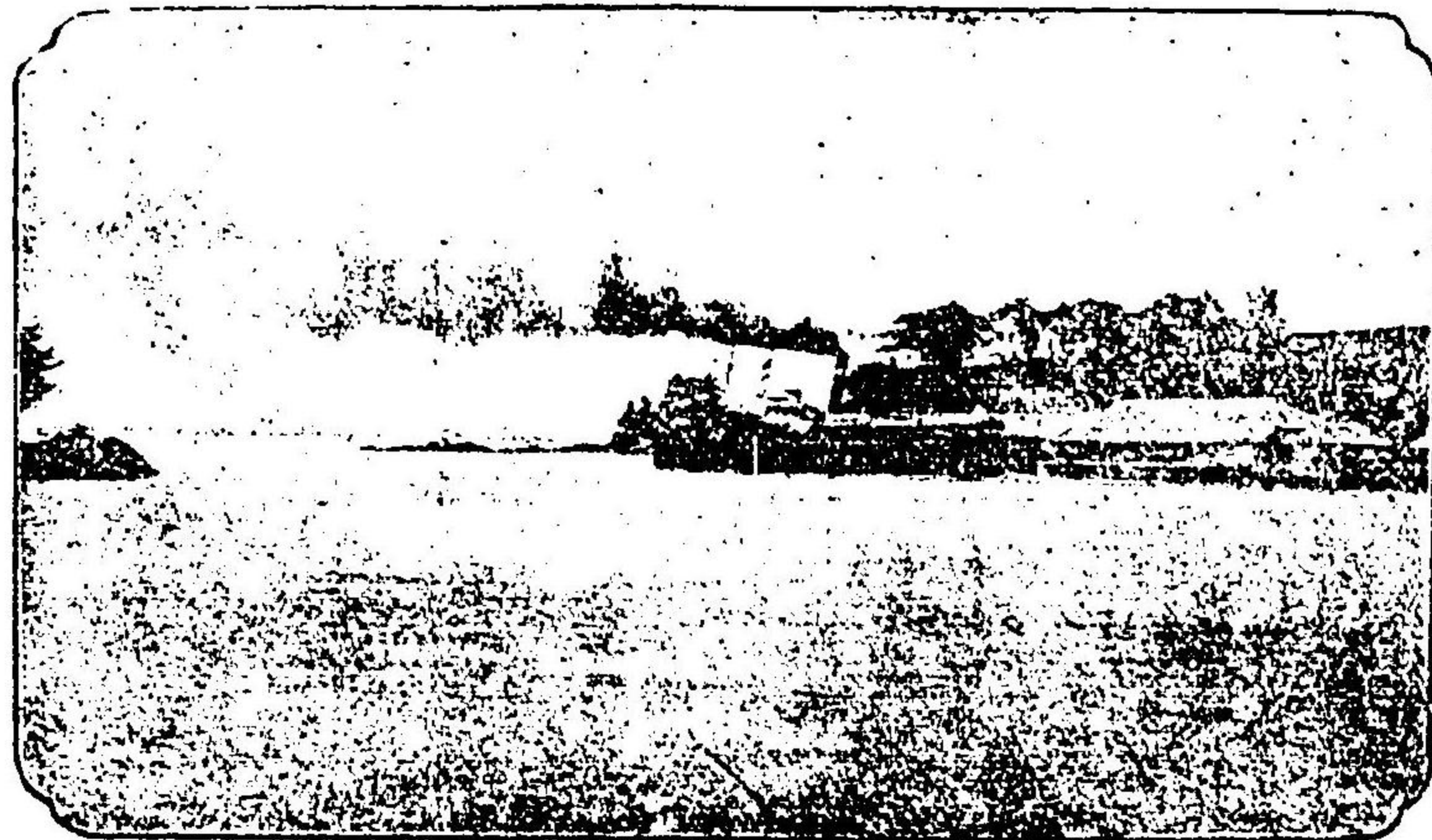


赤水港と日高本郷

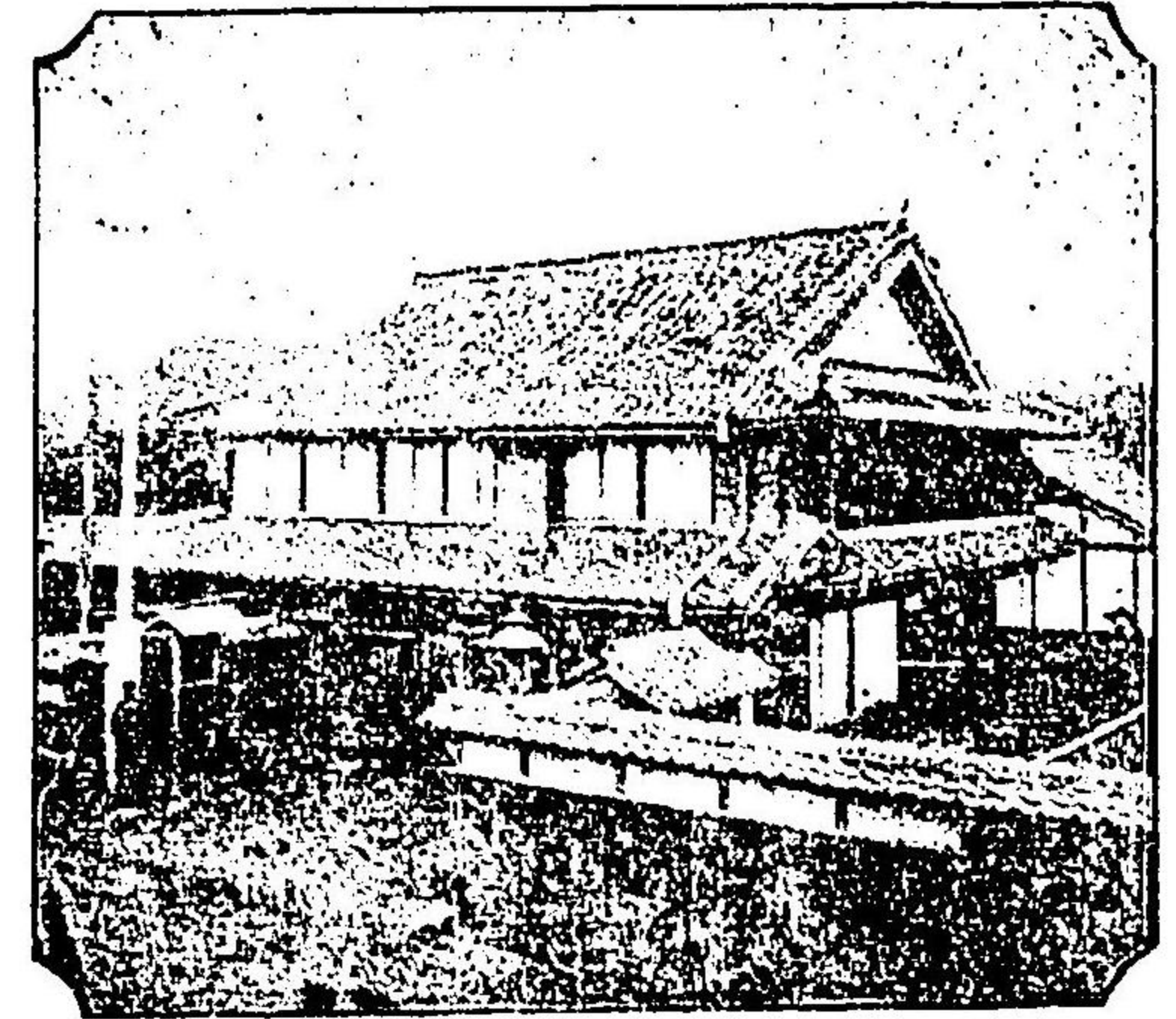


日高漁業部倉庫

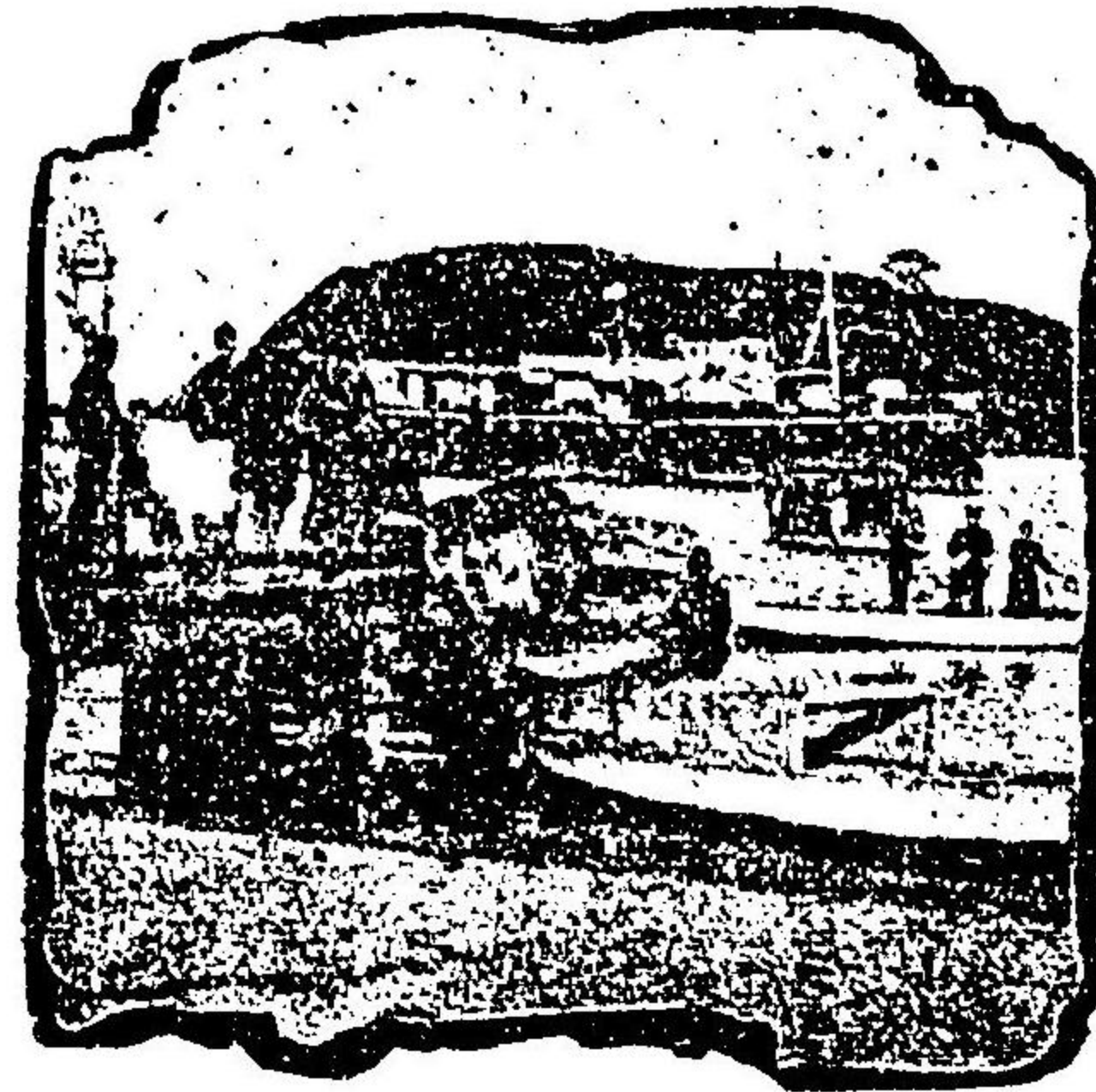
赤水日高棧橋



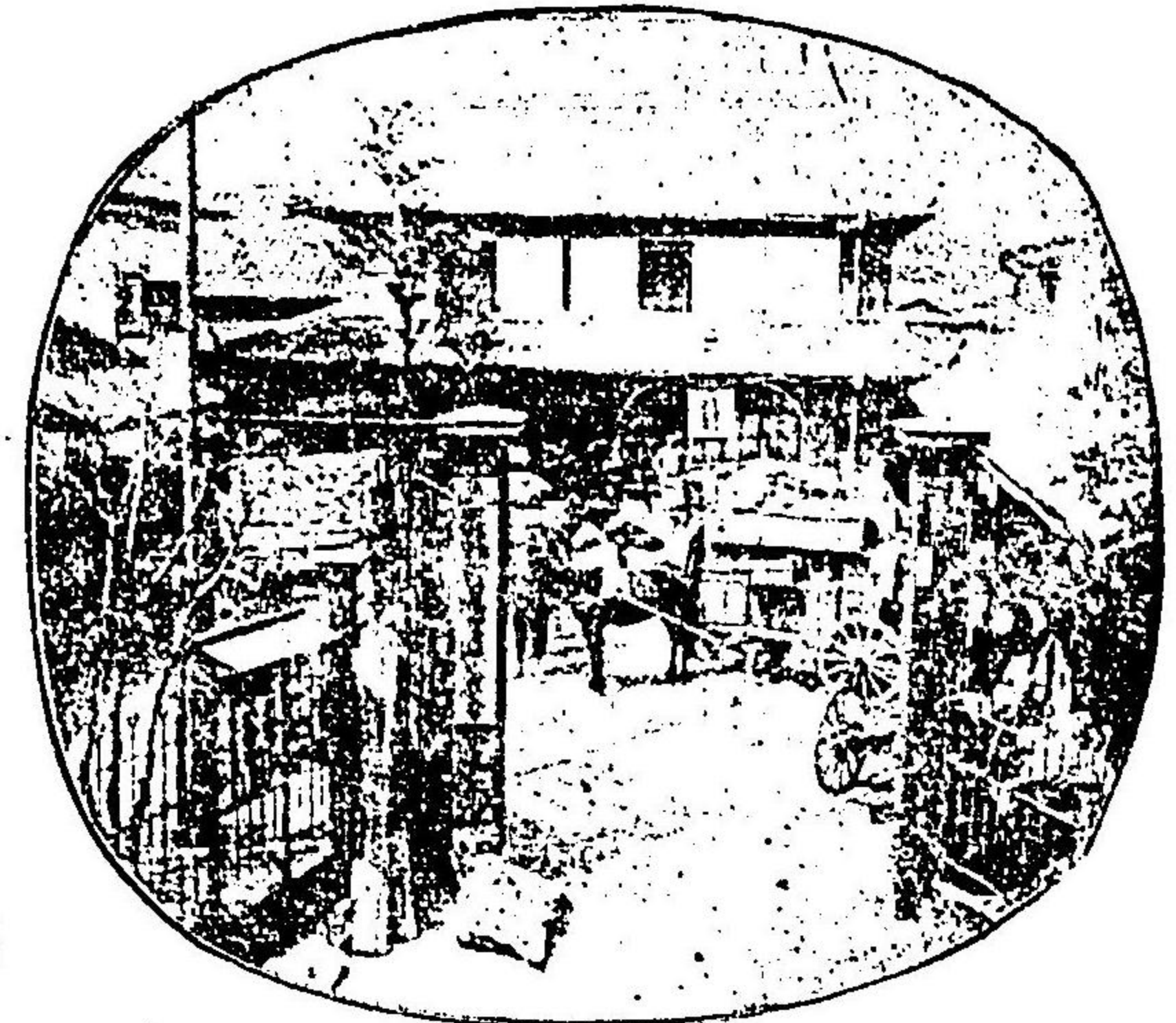
日高保三郎君



土々呂港日高回漕部

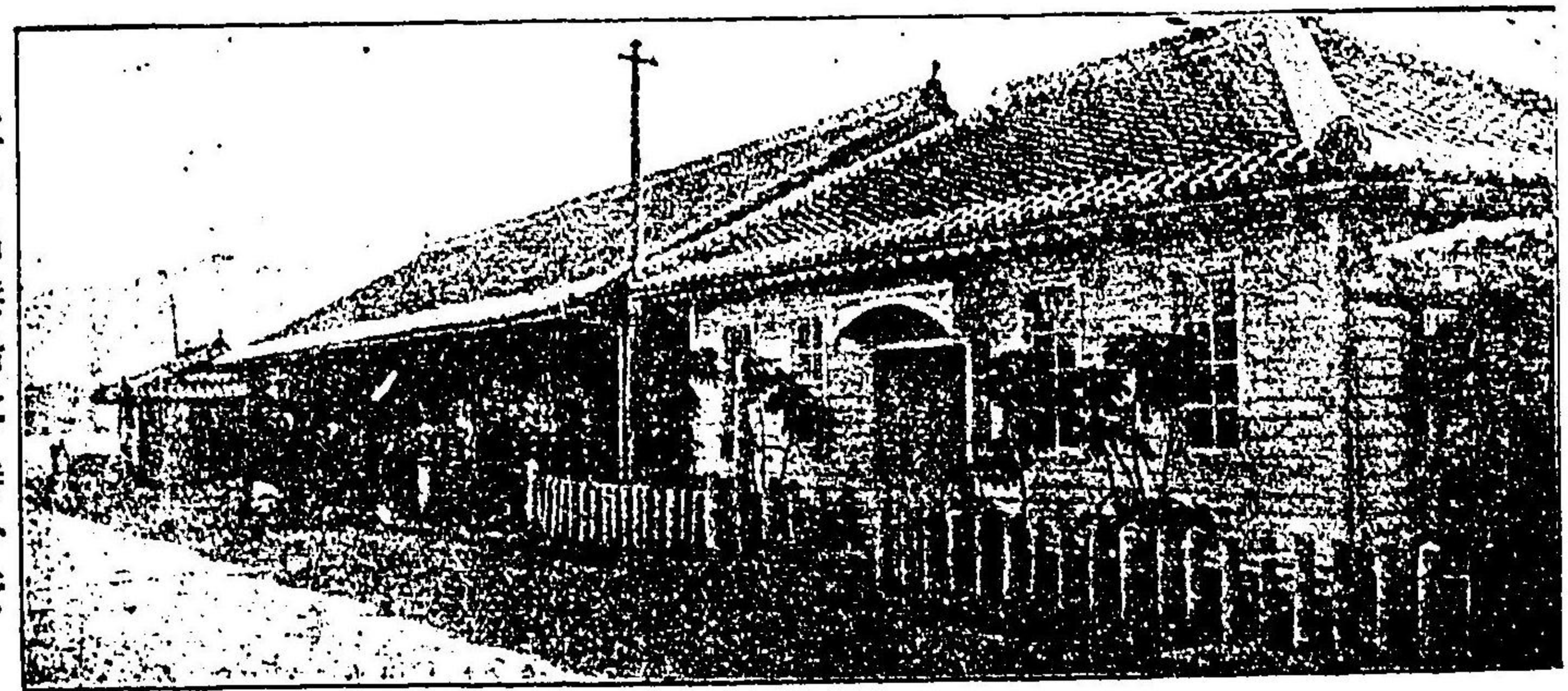


土々呂港棧橋



延岡北町日高回漕部出張所

土々呂港船客待合所





吳服五物

酒類雜貨膏

官塩元賣捌

日向寺尾港

米 兵頭守一郎

電田各(七ヨ)

山產物業  
倉庫業

大阪火災海上運送  
保險會社延岡代理店

日向延岡元町

谷五兵衛商店

電話園三八番

諸產物問屋

木炭木材板類椎茸  
諸產物委託販賣  
并產物賣買仲介周旋

日向延岡元町

日向物產商會

商會主谷五兵衛  
營業主任岡田守一郎

和洋小間物軒高

洋法裁縫便履物類

矢野都深外

念

新貝德本店

電話十四番

延尾町舟倉

念

新貝競商場

電話六十九番

HOTEL

宗室

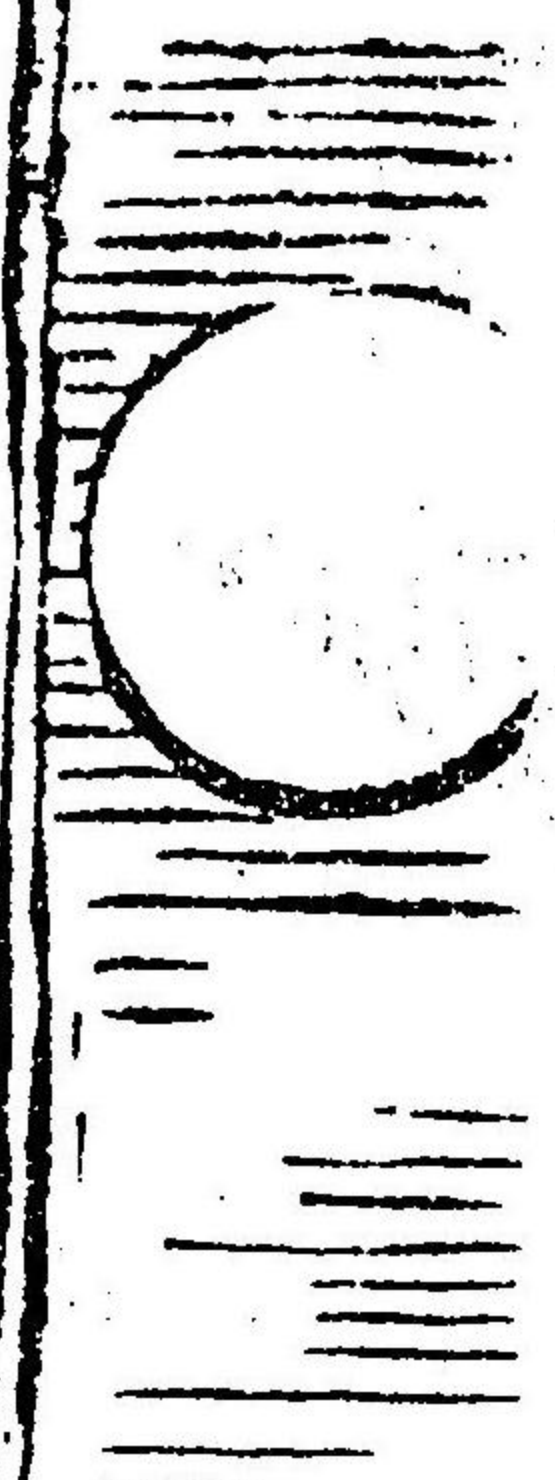
完備

御旅館

延尾南外

土口野倉

電話九番



延尾南外



BEST MILK

蒸 汽 消 毒

純 良 牛 乳

山 本 牛 乳 牧 場

延 岡 恒 富 村

電 畧 (ヤマモト)

煙 雨 亦 風 月

辛 未 三 月

松 園



Small vertical text or stamp on the right side of the calligraphy.

序

延岡の地たる日向の北隅に邊在し交通の便完からざるより日向炭日向松日向椎茸の類を産するを以て其名著しと雖も世人の多は瘴霧鬱山を擁して白日陰るゝが如き山間僻地とし秀靈なる山河は千古の遺蹟を傳へ肥飫の田野は許多の米穀を産し良好なる港灣は船舶の出入に適し幾多の漁場は無盡の魚介を藏し所謂山紫水明にして風光明媚氣候温暖にして海陸豐穰の地たるを知らざるは常に吾人の遺憾とする所なり

近頃田代君巧妙なる技術を有する彫刻家石原君を伴隨し來りて市街港灣名勝舊蹟の實景歴史的古器物知名人士の肖像著名商家の店頭を寫眞版として巻頭に掲げ氣候産業教育交通通信等に至つては簡潔に之を記述し名けて延岡案内記として上梓せんとす之れ蓋し吾人の要求を充たし延岡の實況を世人に知らしむるの最良方法にして延岡の地を繁榮たらしむるの一助たるや疑なく洵に克く機宜を得たるものと云ふべし

明治四十四年三月

宮崎縣會議長 若林 駒之 輔

序

延岡の地たるや、由來山水秀麗にして、綠山碧波詩人の感興を惹くもの多く、史上の遺跡亦行人をして當年を偲ばしむるもの尠しとせず、加ふるに氣候溫和にして土壤膏腴、天然の惠澤境域に充溢し、殖産興業の實績等燦として見るべきものあり。

田代松崎兩君の此著、延岡を中心として、人文の現状を蒐集記載すると共に、舊跡名所の由緒と風光とを探討摘録し、以て汎く世人に生たる小天府を紹介せむとするにあり。

卷中に挿入せる寫眞の鮮明にして多趣なる諸種行政の機關、農工商其他教育衛生に關する資料の正確にして、其叙述の明快なる、一般に内容の豊富にして、趣味の津々たる、共に著者の技倆と用意の存する所とを見るに足れり。

當地方に於ける、自治の發達を見むと欲する者、實業の現況を窺むと欲する者、教育の成績を知らむと欲する者は、共に一讀して直に多大の興味と利益とを得べきを信ず、若し夫れ延岡の山河に至りては、これが爲め、將來天下に衆多の知己を得るの日期して待つべきなり。

明治四拾四年三月

宮崎縣立延岡中學校長 文學士 根 井 久 吾

序

著者が獨特とも云ふべき案内記は最近の新聞紙上にて好評噴々たりしが今又思想を凝らせる延岡案内記を梓に上せらるゝことゝはなりぬ而して此の玉は東曰杵全郡に於ける地理歴史名勝古蹟産業教育交通及諸統計の實況を寫眞と文字とに現はす等すべし之れ金玉にて卷を開けは瞭然終に蔽ふ能はざらしむ裝飾の美口繪の秀の如きは言を俣たざるなり

明治四拾四年三月

宮崎縣東曰杵郡長 齋 藤 政 喜

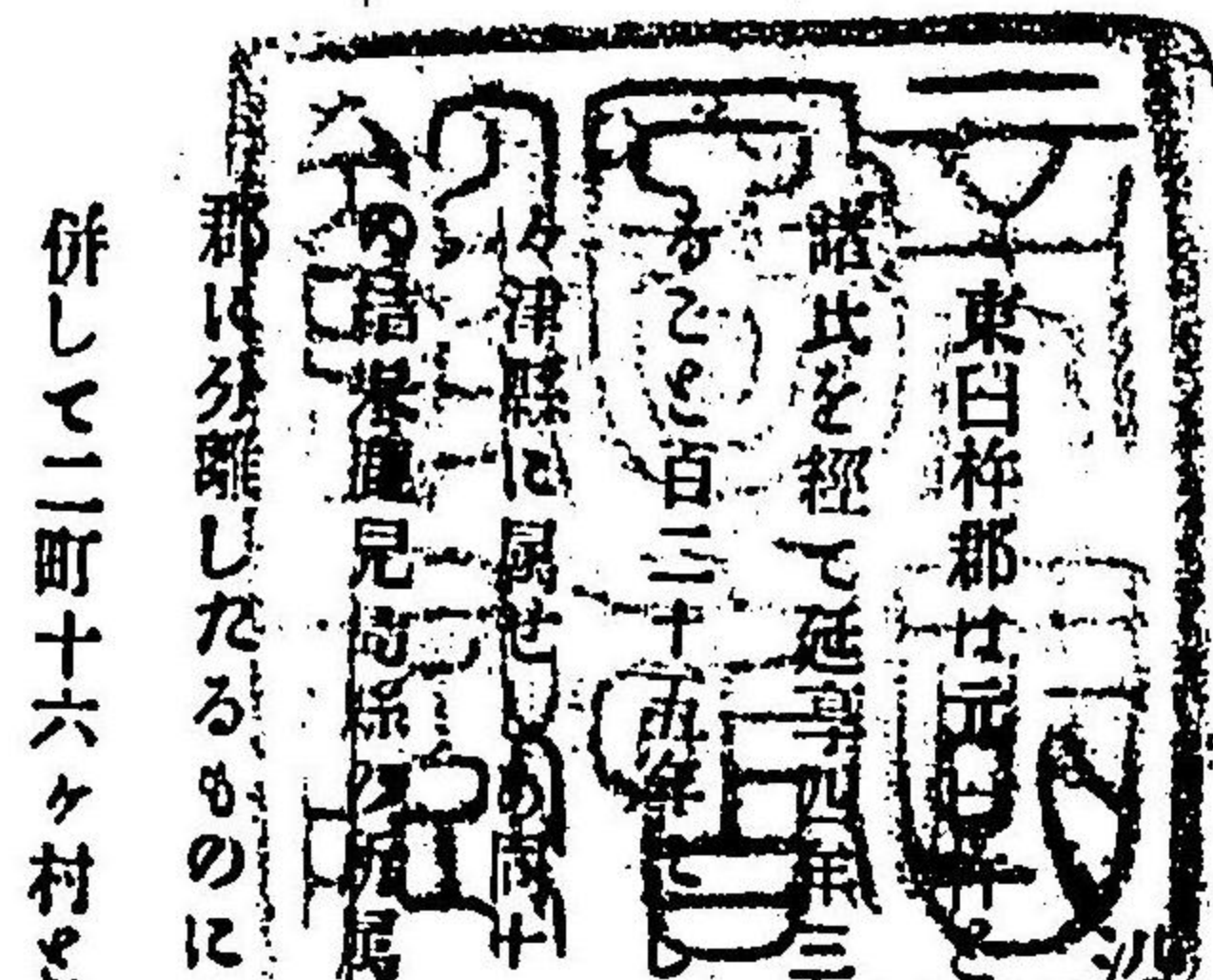
自序

近時我延岡の事を記せるもの鮮とせず、地理、古蹟、状況等を説くものありと雖も、能く事實を悉くすることなく、其書概ね或一部に止まり、簡略を主とし昔中往々誤謬の記事あるを免れず斯の如きは我延岡の地を廣く世上に紹介し肝た米遊者として、詳かに之が實際を知らしむるに足らざることを、識者を笑たすして知るべきなり、余は深く之を感とせり  
於茲完全なる案内記と編述し以て聊かこの欠點を補はんと欲するなり、本編固より文章拙劣にして序事完全ならずと雖も、其蒐集したる舊記、現時の産業等大に地方に關する好資料を得たるもの亦尠とせず、乃て各種の資料を以て考据に充て之を成すに至りたるは幸と謂ふべし

編者識

延岡案内記

沿革



東臼杵郡は元朝稱し十持院の統治に属し建久の頃彌勒寺領宇佐宮領となり其後伊東高橋有馬三浦牧野の諸氏を経て延享四年三月子爵内藤政學の祖先内藤備後守陸奥岩城平より來りて之に代り數世相繼ぎ延岡藩主たりて百三十九年明治維新となり同四年七月延岡藩を廢して延岡縣となし同年十一月延岡縣を廢して美津縣に屬せり同十六年一月更に美津縣を廢して宮崎縣の管轄となし同九年八月宮崎縣と鹿児島縣に合併し美津縣を廢し鹿兒島縣に屬せり同十六年七月宮崎縣再置に當り又其所管となり同十七年七月に至り東西臼杵の兩郡は分離したるものにして其當時の町村は九町四十八ヶ村なりしが同二十二年五月町村制を實施するに當り合併して二町十六ヶ村となして今日に至れり

地勢

東臼杵郡は宮崎縣廳の北方に位し東西八里九町南北十五里二十五町の長きに涉り南は兒湯郡に界し西北は西臼杵及び大分縣南海部大野の二郡に接し東は大洋に臨み而して五ヶ瀬美々津五十鈴北川の諸川郡中を貫流し舟楫灌漑の便あり港灣には細島土々呂東海尾末等の諸港ありて船舶を船す道路は宮崎町を起點とし大分に通する國道の外縣道としては富高新町より南郷村神門を経て西臼杵郡に出づるものと延岡より五ヶ瀬川に沿ひ西臼杵郡に出づるものと二兩道あり

44. 5. 13

内交



町 村

町村は延岡、細島の二町岡富、恒富、和形、四川、富高、岩脇、東郷、西郷、南郷、北郷、北方、南方、東海、北川、南浦、北浦の十六ヶ村にして戸数壹萬八千六百二十三戸人口拾壹萬貳千七百七拾人にして其内農を本業とするもの七千九十四戸參萬四千七百九十三人同兼業のもの四千九百八十九戸貳萬參千九百九十一人商を本業とするもの千六百五十戸參千參百四拾貳人同兼業のもの千六百七拾九戸貳千參百五拾貳人工を本業とするもの八百七拾貳戸千七百七拾貳人同兼業のもの九百六戸千四百四拾貳人漁業を本業とするもの千貳百貳拾五戸同兼業のもの千貳拾戸千四百八拾貳人にして其他は總て雜業に従事するものなり

氣 候

當地は九州の東端にありて後に鬱蒼たる高千穂の諸峯を以て前は洋々たる大海に望み潮流の影響を受け従つて氣候克く調和され夏は海風驟雨屢々來たるを以て暑からず冬は殊に暖にして降雪を見ること稀なり春光秋色一として佳ならざるはなし極暑の候と雖も寒暖計は九十度と上らず極寒と雖も十五度と下りしことなし如斯く以て傳染病の如きも倍んぞ皆無の状態にあり風光の美なるは衛生設備の完成と相俟ちて健康地たるを失はざるなり

教 育

普通教育は専ら之が普及と期し以て學と督勵し郡立教員養成所と設けて教員の不足を補ひ講習會を開催して以て學力を増進せしめ又實業思想を向上せしむる爲簡易實業補習學校の設置を促かし中等教育にありては男子は縣立延岡中學校に女子は舊延岡藩王子内藤政器設置の高等女學校及女子職業學校に就學するの便あり

東 曰 杵 郡 學 事 要 覽

四十四年一月末日調

種 別	小 學 校 數		學 級 數
	本 校 數	分 校 場 數	
尋 常 科 單 級	一〇		二七
尋 常 科 多 級	三五		二七六
尋 常 富 等 併 置	一六		二二
計	六一	一五	三二五

種 別	在 籍 兒 童 數		日 々 出 席	日 々 欠 席	計	出 席 百 分 比
	男	女				
尋 常 科	七八一三	七四三三	七四三三	四一一七	七八四五	九四・七
計	一四九九六	一三九四五	一三九四五	一〇八四九	一五〇三二	九二・七

科 等 高	計	
	女	男
計	六九六	五三二
正教員	一六三	五二一
正教員	一六一	一三七
正教員	六八二	二五二
准教員	二四三	二四三
准教員	二九二	五四二
准教員	一六四	〇九
員	七、六、八七	九六、〇五
計	九六、五六	

種 別	人		月 俸	平均	種 別	經 費 總 額	教 育 費	經 費 總 額 比	一 校 平 均 費	兒 童 一 人 當 費
	男	女								
本 科 常 專	一一二	五	九、九六四	一四、四〇〇	正 教 員	一六、五〇	九、〇七七	九三三五	九一八五	七、一八〇
正 教 員	六二	二	一四、五八三	一六、五〇	正 教 員	一六、五〇	九、〇七七	九三三五	九一八五	七、一八〇
正 教 員	一	一三	一五、〇〇〇	一六、五〇	正 教 員	一六、五〇	九、〇七七	九三三五	九一八五	七、一八〇
本 科 本 科 常 代 用	一	三	一〇、二二八	一六、五〇	准 教 員	一六、五〇	九、〇七七	九三三五	九一八五	七、一八〇
准 教 員	三九	二七	八、二二〇	一六、五〇	准 教 員	一六、五〇	九、〇七七	九三三五	九一八五	七、一八〇
員	四四	八〇	八、二二〇	一六、五〇	員	一六、五〇	九、〇七七	九三三五	九一八五	七、一八〇
計	二五八	一三〇			計					
豫 算	三三、七〇八	七、四一七	一一、八四九	二、二三四	四九、一三一	一八六〇、五六一	七、四一六			

遊 覽 地

縣城跡 松山城主高橋種統關ヶ原の戦後慶長八年の築城にして種統は水間勘六衛なるものを高千穂 隠したる事發見され父子共に常陸の國に流さるよつて有馬直純、三浦常陸守 牧野備後守等の居城すところとなり延享年間より内藤政樹代て居城せし所にして日露戦役記念碑 郡内戦死者招魂碑を建設して紀念井公園となす

延岡町の西方地は高丘にして西は高千穂の山脈連綿として變へ東は遠く太平洋に望み四季の風景最も美なり  
 茲眼寺 北方村曾木にあり僧胤康の居寺なりしが明治二十四年靖國神社に合祀せらる胤康は性豪邁夙に勤王の志を抱き慶永二年幕府の專横を憤り私に諸國に同志を募り爲す所あらんとせしを中途に事洩れ遂に幕吏に捕縛されし所僧は送られて京都の獄中に死す延岡より西三里半

の、ひさのやばすのたきにきてみれば

かはかみたけるをちてなかる、

とあり此の歌は今延岡地方の神樂歌に用ゆと延岡より西に三里

可愛岳 延岡を距る北國道に沿ひ三里北川村にあり瓊々杵尊の御陵なりと云ひ傳ふ所にして明治二十八年宮内省より買上げ傳説地として保護せらる、西南の役に西郷隆盛此の山にて激戦し夜に乗じて米良山脈を辿り薩摩に歸りしと云ふ、山頂には奇岩怪石各所に屹立し累々重疊天を摩する如く或は龍蛇の巡回する如く鉾岩、三本岩等ありて或は人形の如く或は虎豹の起伏する如く實に絶景の地なり

那智山 東海村川島にあり延岡を去る一里半余速玉男神を祭る那智の瀧あり避暑地に適し全所より十八町北に須佐梅ヶ谷あり谿谷梅を以て埋む花の盛りには佳人の杖を曳くもの最も多し

蓬萊山 (一名今山)延岡八景の一にして岡富村にあり延岡町より北に僅四町東に招魂社北に公會堂ありて蓬萊館と名づく眺望絶佳にして公園の名に耻ぢず山上に岡富神社ありて元げ八幡宮と稱す天平二年の勅諭にして應神天皇、玉依姫、神功后皇の三神を祭る其西麓を宇新宮と稱す此の田の中に巨石あり除福の基なりと云ひ傳ふ

今山の西に大師堂あり四國八十八ヶ所に擬して石像を置く

九ヶ島海水浴 恒富村にして延岡より三十町余白砂青松三里に涉り嶺々として吹き来る太平洋の風は松の梢を掠り其音は彈琴の音かと疑はれて三伏の暑も忘れ前面の渺茫たる海岸には白帆浮び海水浴には最も適當の地なり

舟越古戰場 伊形村にあり文明七年伊東修理大夫祐幾、土持輝正との激戦敗年に涉る古戰場なり延岡よりすも土ヶ呂より西南三里余

安賀多神社 岡富村にあり養老元年の創建にして大日靈貴命、手力雄命、萬幡姫命外四座の神を祭る縣社にして例祭は四月十日なり延岡より西に十八町

三福寺 は淨土宗智恩院の末派にして慶長十九年の開基なり僧幡隨意なるもの來りこゝに住職たること久し後東京芝増上寺の僧正となる寺の南方にある小堂は其礎を祭れるものなり延岡北町

笠塚山 恒富村にあり今は愛宕山と稱す麓の公園に噴水あり龜井公園と相對し四季の風景に富み山水共に佳なり其傍に恒富神社あり養老五年の創建にして垂跡天兒根根命、武邊祖命、齊王姫命を祭る延岡より南十八町

櫻子墓 謠曲に記せる所の櫻子の墓は其昔中にある如く舊邸内天神小路の藪中にあり墓邊雨天樹多く刑塚に埋り居れり里人此墓の南天に觸るれば腹痛するると近寄るものなし

硯石山 北川村八戸の東北に方る河原が内の山腹に在り石質堅緻其色青紫にして硯石に適す其質亦間關の其者に劣らずと云違く安政の頃發見せしものなりと

秘密の窟 行騰山の南腹にあり窟口高さ一丈八尺餘深さ幅共亦同じ昔時修験者の徒窟居して雨を祈り病治と祈りし所なりと

神門神社 南郷村神門にあり大山祇命を祭る養老二年の創建なり當社に百濟國伯知土の靈を祭る伯知王は天平の頃兵亂を避けて來朝し安藝嚴島より筑紫に渡る途中難風に逢ひ臼杵郡金ヶ原に漂着しこれより上陸して山陰に止まれりと云ひ傳ふ

恒富神社 恒富村百の元にある郷社にして養老二年十一月廿五日大神大納言惟資の創建なり

茲眼山觀音寺 細島町にあり港内と見下し眺望に富り元茲眼寺と稱し應永五年圭堂首座の創建せる所なり其後延寶六年近江國坂田郡總持寺の愚海和尚行善菩薩作の十一面觀世音と負ふてこゝに來り更に堂宇と建築して今の名稱に改りり其後堂宇は火災に罹り悉く島有に歸せしも觀世音の像のみは災を免れて今に靈驗あらたなり口碑によれば天平四年近江國に惡疾流行の際行善菩薩聖武天皇の勅命を蒙り伊吹山の桑樹を以て彫刻したるものなりと

上國海の大艘 富高村八幡神社より五六町を隔てたる所にて此海に多數の大艘すみ人の足音を聞くと直ちに穴より出で來ると云ふ

荒神祠 細島愛宕神社の東にあり火産靈尊外二神を祭る本祠の由緒に據れば神武天皇東征の時御船を此島に寄せさせられ軍卒に仰せて三つの鉦を建てさせ給ひ土人を召して是を祭るべしと宣ひければ大に喜び合せて三鉦を祭り其より鉦島の鉦神と唱へ尊崇し來りしを後細島と訛り三鉦と三寶荒神と稱ふに至れり

八幡神社 富高村宮の尾にあり仲足彦命、琴田別尊、息長足姬命の三柱を祭り素戔男命、猿田彦命、豐玉姬命と合祀し相殿には少彦名命、建甕名命を祭る元歷年中平家の一族追討の爲工藤祐經、那須宗高等日知屋の濱に着船し草場山に岩を築きし時鎌倉鶴ヶ岡八幡の靈を迎へて創建する所なりと

日本武尊事蹟 南方村にあり舊記に曰「川上梟師と云へる者行騰に住て民を助け貢ものを掠ける程に征伐の

爲に日本武尊下り給ふ龍舟東海の港に入ぬる時日も西成峰お傾けるに依り知らぬ仇の國よ夜行かんも如何と思ひけるに落日暫く西に山留りぬ尋此奇端を喜び行騰の山に近く幸なり給ひ舞野村野添と云ふ所にかり宮を起し七日あまり住給ふ夕日のとまりたる山を大日山と名付其山の様行騰に似たればとて行騰山と名付給ふ雄岳雄岳のあひだを矢筈の瀧と其水の落つる所を布引の瀧と唱ふべしと宣ひ日本無双の山なりと御祝あり

其後御身を童女のさまに變じ梟師が娘を欺き容易々梟師を亡し給ひ此國の政を懇に執行ひ天より豊後に越さ都に歸り上らせ給ふ舞野村行宮の跡は武宮と号し今に有り千勝宮とも唱へ奉る(下略)

舟遊 (旭炭山氏記事抄録)趣味津々の延岡に在ても愉快に感せらるゝのは五ヶ瀬川の涼舟である(中略)船倉の下まで行けば輕快なる一隻の屋形舟は繋がれてある乗込んで見ると綱も味噌も醤油も茶もナヤンと備付られてあつて宮崎の舟遊のやうに空から持込む面例もなひものである延岡の舟遊の盛んなのは全く此設備あるがためだとも先づ感せられたのであつた聞けば船賃も安いもので一日が一切で一円廿錢綱打を連れるとしても別に六十錢を出せばよいのである(中略)ヤツと一突き五ヶ瀬川の流れに突出せば舟は玲瓏玉の如き水に従て進む(中略)満潮五尺の水を湛へて流るゝ流れに浮び茶を煮て時を案じ風に戦々蘄々葉を出つ入りつ綱を打たせつ舟漕ぎ廻すのであるから愉快絶頂を自白するだけだが数である折から石鬼の行騰の邊から流れ出でたる一菜の妖雲は電光一閃忽ち來つて驟雨を降らし點々水を打つこと頻りなれば五寸に長く尺には足らぬ多くの船は躍つて舟に入らんとするを一綱打盛とうち下し大小六尾を捕へて船底に活潑々云々(編者曰ク、激務繁忙の餘暇此舟遊によつて遊樂を恣にするを得べく又以て旅客の情を慰むるに足る要するに當地が娛樂機關の設備に乏しく之が振はざるは主として此の五ヶ瀬川の遊舟に潜窮せられつゝあるものゝ如し

爲に日本武尊下り給ふ龍舟東海の港に入る時日も西成峰を傾けるに依り知らぬ國に復行かんも如月と見  
ひけるに落日暫く西に山留り此處此處を尋び行轉の山に近く幸あり給ひ野村野暮と云ふ所にかり客を思し  
むれおまむ住給ふ夕日のとまりたる山を大日山と名付其山の様は時に見ればとて行轉山と名付人跡皆無  
のあひだを笑の池と其水の清たる所を清引の池と名ふべしと宣ひ日本武尊の山なまむ御禮あり  
其後御舟を女のおまに廻りし時が娘を歌き客も舟師を亡し給ひ此國の政を悪に言ひ人より野原に露と  
は歸り上らせ給ふ野村野暮の詩は本宮と号し今は有り千餘箇とも唱へたる下著

船 遊 旭炭山氏記事抄卷一 遊味々々の龍舟に在りてははははと云ふものありは川川の流すところの中  
遊舟の舟で打ければ快なる一隻の屋形舟は壱かれであるや込んで見ると御も味言も御も茶もタマと御也  
られてたつて宮崎の舟遊のやうに宅から打込り御もなみものである延岡の舟遊の盛んなのは全く此散備ある  
がたふだも先づ感ぜられたのであつた聞けば船員も安いもので一日が一切で一日廿錢綱打を連れるとして別  
に六十錢を出せばよいのである 中略 ヤツと一突き五ヶ瀬川の流れに突出せば舟は玲瓏上の如う水に從て進  
む中略 瀬淵五尺の水を漕へて流るゝ流れに浮び茶を煮て詩を案じ風に飄々蘆の葉を出つ入りつ綱を打たせつ  
舟漕を道すのであるから徐絶快絶を面白するだけが技である折から石鬼の行勝の邊から流れ出でたる一朵の雲  
雲は電光一閃忽ち來つて驟雨を降らし點々水を打つこと續りなれば五寸には足らぬ多くの雲は躍つて  
舟に入らんとするを一綱打盡さうと下し大小六尾を捕へて船底に活潑々云々 船者曰く、激務繁忙の餘暇此舟  
遊によつて遊樂を志にするを得べく又以て旅客の情を慰むるに足る要するに當地が娛樂機關の設備に乏しく之  
が振はざるは主として此の五ヶ瀬川の近所に遊樂せられつゝあるものゝ如し

### 延岡八景

臺雲寺の晚鐘

小林貴誠

石鬼の夕山おろしかせさて

速日の暮雪

あはれみにしむ入相のかね

速日峰つもりながらに晴そめて

妙田の落雁

ゆきしつかなる夕くれのそら

ふく風のさゆる夕への雲井より

東海の歸帆

芦まをさしてねつるかりかね

真帆かたは風にまかせてみつしほに

平原の晴嵐

かへる東海の浦の夕くれ

立ちらふ松のちらしも静まりて

今山の秋月

こせえにかかる夕やけのくも

さやかに今山のはを出てにけり

洲崎の夜雨

しはしうきよは秋の夜の月

とまり船むかひの岸に見えぬから

柳川の夕照

小雨をほふる夜半の静けさ

緑いろにながるゝ水にうつろひし

夕日の影もさやかにけり

### 城山

尋常科第六學年 若林 愈

城山は延岡町の直ぐ西に在る小高い山である昔は龜井城と云つて名城の跡延岡七萬石の藩主内藤氏の居城であ  
つたが戦争等の爲め今は只菅平の石垣のみ残りて居る昔のことを思はしめるのみである中にも千人殺しと

云ふは見たばかりでもぞつとする様な大仕懸けの石垣である之を見て昔とんな大きな城であつたかと云ふことがわかる五十年前までは草茫々たる淋しい城山に過ぎなかつたが今は龜井と云ふ公園になつて居る道も開かれ上まで車を通ふようになり桃や櫻を植ゑ込んでたのしい遊び所となつた上に見事な招魂碑記念碑がたつて居る又延岡附近のものに便利を興ふる報時堂が建つて居る之は古くから傳つた大きなつりがねである又平地の中に一つ立つて居る山だから四方八方を見渡す事が出来る中にも東の方は尤も眺めがよい賑やかな延岡町淋しい村里松原つゞきの海濱廣々たる太平洋など一目のうちには望まれる實に其景色の良し事筆につくされぬ又この景色を眺むる者年中絶ゆる事がないのである

屋形舟

坂本春汀

(一)

水色木綿のまくのうち

紅燈灯の打ゆるい

なかに黄色の音がもれて

今繩どいた屋形舟

(二)

駒下駄ひいて板田橋

はなれてゆるい屋形舟

月天心にかいやいて

風水面に清ら吹く

流の中に投げ出した

いかりに舟はとしまつた

ツルツルツルツルのぼちの音も

止んで静な舟の中

(四)

微吟ゆかしき京なまり

夜はしんしんと更け渡り

町の燈火がほのみゆる

客はたれやらたれぢややら

(完)

朝發龜城下大河

悠然半日靜中過

注々萬頃蒼浪水

若遇月明興奈何

延陵八景

松田正久

臺雲寺晚鐘

森永桃堂

澹蕩日將暮

天邊一鳥歸

寺頭鐘六杵

聲逐落花飛

柳村夕照

杏村斜照燧

江上布帆紅

橋影高於屋

行人水滸中

東海歸帆

西山紅日淡

東海暮雲多

柳外江風爽

歸帆ノ過

速日暮雪

速日暮天雪

亂飛如落花

皚々難辨鷺

佇立數磯鷺

平原晴嵐

蕭疎風氣爽

白鷺逐漁舟

松下童三四

啼々園草遊

妙田落雁

海濶天空處

風清月白秋

南飛多少雁

啼下荻蘆洲

洲崎夜雨

長堤涼可掬

吟味醉顏開

半夜青松外

狂風白雨來

今山秋月

風拂峽雲淨

大空金氣流

眞如天上月

偏照萬家秋

和歌

大橋蝶夢

高千穂は有りし昔の偲ばれて

今お昔とかなす術もなく

古し事問ひても見まじ高千穂の

峯の松風答しに吹け

有明の月も宿るや細島の

港川原に雁低ふ啼く

## 延岡を觀る

田代秀資

(余が延岡と云ふは細島港以西延岡町附近一帯の地を云ふ)

日向延岡の地たる上古より早く世に知られ世々多くの史蹟を留む我來りて此地を觀るに、風俗人物の淳厚朴  
訥市街、近郊、海濱、山野身の到る處、清秀閑雅、前は東海の港灣に瀕し後は高千穂の諸峯障屏を環らし山海の景  
勝を目撃する狀、我懷彼の西班牙を聯想して此地バルスローマ(細島を指す)に似たるの感あり、西班牙は半島に  
國して山嶽を環らし歐の大陸と隔離すと雖も幸にしてバルスローマの良港あり東西の船を埠頭に招致して貿  
易常に頻繁を極む、仰も國に良港あるは、人に口あるが如し榮養焉に繁り、生存も亦焉に繁れり、故に西人は海港  
を稱して一國の口と云ふ、西班牙王國が僻任して、尙國富の榮養を失はざるは首としてバルスローマの在るを  
以てなり、是れ宮崎縣人、就中延岡人士の大に反省す可き所ならざること莫らんや、延岡の發達を策するものは  
萬口一聲皆交通設備の要を言ふ、寔に然り、今夫れ鐵道を敷設して遠近の接続に資し、細島、土々呂の海港を壯大  
にして内外船舶の出入に便せん乎、百貨は鐵道によつて吐出され、四外の商品亦船舶に藉して此地より吸收せら  
るべし、此地亦突然の榮土にして近郊には温泉浴場の設備中と聞く、行騰の瀑布は眞の仙境たり、延岡にして縣  
下商業の中心とならば更に其設備を加へて内外上下の逸豫行業に適せしめんか東洋無敵の安樂境として其名世  
界に顯然たるに至るべし、高千穂の靈地も之によつて益々世に知らるべし、延岡の繁昌は宮崎縣の繁昌なり、當  
局にして自ら奮はば將來眞の一都會たるべきの運命を有し、好望を有せり、天の與ふるを取らざれば却つて其  
尤を受くと云ふ、當局に當るの人は、一考再思せよ、我や既に延岡を愛すれば、併して之が發達を望む、既に之が  
發達を望めば豫め之が計畫を定むべし、我其當局に求む、胸に廿年の設計を存し餘々に實行の手を著くべし、我

(12)

試に其事業を概擧せん乎

- 一 鐵道 と此に惹着くるもの其一なり、今の世界に鐵道に孤負するの地は論に上らず、一切萬事は是より後なり  
鐵道既に成れば
- 一 停車場 たる地區を選定し置くの必要をらん、停車場の遠近と完否とは一市の繁盛と相關するもの尠ならず
- 一 市區改正 隣村合併も亦其一なり、今の延岡町は半ば村落にして一縣の町としてみても觀るべきを得ず況んや將  
來東洋の一遊覽の郷とまで推上さんと欲するに於て之を之に伴ふべきは
- 一 道路 の改修なり、宜しく海濱より山の手にかけて一大廣路線と畫し、他日馬車と驅りて内外旅客の馳驅に委  
するの計を爲せ、外人の遊覽地と爲さんと欲せば此路必須不可欠なり
- 一 公園の 敷地を保留するも亦た必要なり、以上今より豫謀し置くといふものは、土地の繁榮に従ひて地價は遂  
年騰貴しゆかん、今に於て保留し置かば市力は終に之を奈何とせしむる能はざるに至らんのみ
- 一 登山 鐵道即ちケーブル、カーなり、香港に遊べる客は之を知らん、其地酷熱なるも山上に登れば、爽氣心身に  
適し、且つ一洲九嶺普覽の眺めあり、故に山上には清梵のホテルあり、登山には登山鐵道あり、延岡の地遊家には  
申分なきも遊覧には少しく遺憾ありと聞く、尙將來欲しきものは
- 一 ホテル の設備なり、日本に來遊する諸外客の憂ふる所は、ホテルなきに在り清梵のホテルの意欠ぐべからず  
之に次ぐものは
- 一 カップフェー たり、モナコに遊べ、ロスに遊べ、アーブルに遊べ、到る處カップフェーの設あらざるはなし、極めて  
清梵に、極めて簡易に清風を納るべく、ビールを呼ぶべく、香非を喫へべく、繪はがきあり、新聞あり、閱覽を繼  
にす可し之に次ぐものは

(13)

一遊廊の改善なり、石川や濱の兵砂に盡さるるも、世に盡さるるものは泥棒と助平なり、氣嫌よく遊ばせ、夢中に醒らせば、黄金と湯水の如くに使はするは遊廊なり、六ヶ敷議論を取除けなば、之が改善こそ當今の最大急務ならん、之と相並びて設備す可きは適當なる。

一劇場 一市一の繁昌は又之によつて繁かれり、千兩役者を招き來るも睡かしからぬ劇場の設置是れ亦欲を得じ、若し夫れ延岡を東洋のモナコと成さんと欲しなば

一海水浴場 の如きも少しは歐州の海濱に見習ひ其媛の來泳を迎ふべし

一養魚場 即ちアコリユームの如きも、亦此に無かるべからざるもの、一なり、以上を一時に延岡に望まんは日本に米國たれと云ふに等し然れ共此地は幸に興運を有せり、爲さんと欲すれば、成る可きの素質あり、高千穂の莊の人胸に二十年の計畫を成せ。

行 騰 山 瀑布

遠看翠壁近天門

安 藤 道 齊

無人不道甲乾坤

雲樹推邊雷吼喧

行 騰 山 瀑布

日現虹霓風點雨

相 木 紫 溪

輸我神奇定幾筭

舞野望行騰峯

同 人

行沿淡流穿荇間

原頭植杖仰屏顏

烟耶爾耶樹耶宕

天半一幅米冢山

細 島 港



細島は神武帝東征の際耳々津港を發し颶風の爲避難せられ、出帆に臨み紀念の爲自ら鉾を建て鉾島と命名せられ後之が轉訛して細島と稱するに到れるものにして早くより汽船の航海開け日向第一の關門にして大阪商船會社内海線の濠船は毎日寄港し、全社の鹿兒島線の濠船は隔日に寄港す百貨輻輳して日向第一の關門なり、灣の東西二十余丁、南北三丁乃至五丁投錨には一の障礙なく南北兩面には高岡ありて暴風を遮くるに適し市街は灣の南端にあり東洋捕鯨會社出張所、興産合資會社、細島捕鯨工場、日州銀行支店、朝屋銀行支店、日州貯蓄銀行支店、細島町役場、惣專賣所出張所、細島警察署、水上警察署、細島小學校等ありて頗る段賑の地なり

朝日公園 は町の東端にあり往時幕府が關稅徵收

のたの番所と設けたる所にして俗に御番所と稱す丘上に日露戰役の紀念碑あり、庭苑廣闊樹木繁茂し春夏秋冬、眺望頗る絶佳なり

日知屋 城趾は町の西端伊勢ヶ濱にあり肥藩主伊東祐高の築城にして太平洋に面し海上に突出せる一大巖上にあるものにして眼下の怒濤岩を瞻み眞に天下の絶景なり

松風は絶へず吹くとも伊勢濱の歴史は正に朽ちなんとする

大 橋 蝶 夢

米山 は海拔六百五十ノートル、俗に細島富士と稱へ其頂上にある老松は航海者の目標とするものにして遠望すれば恰も雲中に聳ゆる如く頂上に上れば太平洋の波上遙かに四國の山々を望み思はず壯快を喚ぶ、

歌に詩に來て遊ひませ都人

史上にたかき高千穂の峰

谷 山 紫 水



産業

農は本郡の主要なるを以て専ら之が改善に力を盡し時々農談會品評會等を開き指導獎勵する所あり而して本郡の面積約八分は山岳原野にして最も植林に適するを以て之を獎勵に力を盡し椎茸木炭等の製造改良を促して其産額を多大ならしめ又水産にありては漁具の改良製法を促がし遠洋漁業を奨励し其他畜産養蠶製茶事業等に對しては補助を以て補助を與へ之が改良促進を期せり然して明治四十二年の生産額は農産物百九十九萬四千九百二十二圓、畜産物四萬二千五百一圓、九十七錢、林産物四十九萬九千八百五十九圓、工業産物十九萬六千七百九十五圓、七十四錢、礦物七十四萬五千三百五十九圓、二十二錢、五厘水産二十八萬七千三百六十四圓にして此の合計二百六十七萬二千八百二十八圓十五錢五厘に達せり

輸出入	輸出入	輸出入
細島	九六五、五四六	八九一、二六六
土々呂	一五九、五四八	四九、八八八
尾末	三、一七〇	二二、一六二
東海	二、六九九	八、一三五
島津	一、二二六	一、一八九
古江	一、三、六三九	一、四、六九八
市振	九、七九三	五、一四一
宮浦	九、六一八	四、四一三
合計	二七、八七三、三二九	一五、三三三、五二二

以上掲ぐるは本郡内の各港を經由したるものにして左に示すは東日村村にて生産物の輸出品也。

第七號參照

宮崎縣東日村南方村大字南方字惣々内  
 私有山林丙貳千四百拾八番山林湧出  
 定量分拆並に醫治効用

右水ハ殆ど無色清澄ニシテ少許ノ浮游物ヲ有シ微ニ硫化水素  
 臭ヲ放テ反應ハ微弱強ニ加思性ヲ呈ス比重ハ攝氏貳拾參度ニ於  
 テ壹、〇〇〇五ナリ之ノ定量分拆ヲ遂グル本水層子「グラム  
 六「グラム」我貳分六厘六毛余ニ當ル中〇、四九七五「グラ  
 ム」ノ固形物ヲ含有ス而シテ其主要成分ノ「グラム」量五ノ如ク

格魯兒加爾漢	〇、〇〇七八
格魯兒那篤爾漢	〇、二五七四
炭酸那篤爾漢	〇、一五〇八
炭酸加爾奧漢	〇、〇一三六
硫酸加爾奧漢	〇、〇一三三
炭酸麻爾温奧漢	痕跡
鐵	〇、〇〇七三
錳	〇、〇〇一四
珪	〇、〇二五六
矽	痕跡
沃	微痕
遊離及半結合炭酸	〇、〇八四五
硫化水素	〇、〇〇三七

但炭酸並に硫化水素、泉源ニ就キ試驗スレバ之ニ過カク  
 多量ナルベシ

右試驗成績ニ據レバ此水ハ單純硫酸分ニ屬スルモノトス

醫治効用  
 (浴用)慢性皮膚病、慢性硬麻質斯、痛風風濕

内務省衛生試驗所所長  
 衛生試驗所技師 辻岡精輔 團  
 明三十二年九月十四日主任  
 衛生試驗所技師 廣阪卯之助 團

産業

農は本郡の主要なるを以て専ら之が改善に力を盡し時々農談會品評會等を開き指導獎勵する所あり而して本郡の面積約八分は山岳原野にして最も植林に適するを以て之が獎勵に力を盡し椎茸木炭等の製造改良を促がして其産額を多大ならしめ又水産にありては漁具の改良製法を促がし遠洋漁業を獎勵し其他畜産、養蠶、製茶事業等に對しては郡費を以て補助と與へ之が改良發達を期せり然して明治四十二年の生産額は農産物百九十萬千四百十九圓二十二畜産四萬二千五百一圓九十七錢林産物四十九萬九千八百五十九圓工産物十九萬六千七百九十五圓七十四錢礦物七十四萬五千三百五十九圓二十二錢五厘水産二十八萬七千三百六十三圓にして此の合計三百六十七萬二千八百二十八圓十五錢五厘に達せり

東日 杵 郡明治四十二年度

港名	輸出	輸入
細島	九六五、五四六	八九〇、〇二六
土々呂	一五〇九、五四八	四九〇、八〇八
尾末	三〇、二七〇	二二、〇六二
東海	二二六、九九九	八二、〇三五
島ノ浦	一一、二〇六	一一、九八〇
古江	一三、六三九	一四、六九六
市振	九、七九三	五、二四二
宮浦	九、六〇八	四、四〇三
合計	二七、八七、三二九	一五、二二、二五二

以上掲ぐるは本郡内の各港を経由したるものにして左に示すは東日杵郡内にて生産物の輸出額なり

品名	数量	價格	輸出先
米石	六四〇	七、二〇〇	大阪
茶	一、二〇〇	四、四四〇	大阪神戸
葉煙草	—	—	—
木材	一二六、五五七	七六、九二七	大阪神戸中國
板類	六二、〇三〇	三六、一〇六	全上
推茸	一五、一二五	六七、九〇四	大阪神戸
靱糸	三九五	二〇、九八四	横濱
木燧	四、五〇七	五、二二二	大阪
銅	一二六、二〇九	七四三、七五九	神戸
安貨母尼	一、〇〇〇	一、六〇〇	大阪
錫	三、九四六	八、九三三	大阪神戸廣島
饅鱈	三、一二五	九、七〇〇	神戸大阪
魚油	三五〇	一〇五	全
海參	一、五〇〇	六四五	大阪
乾鮫	一、三七〇	一、〇三三	神戸大阪
乾鮓	九〇〇	三八七	大阪

品名	数量	價格	輸出先
乾鰯	一六、〇六〇	一〇、五四一	大阪神戸廣島
日刺鰯	八、〇八二	三、七三二	全上
鹽鱈	一四、二六九	九、〇二八	大阪神戸
鹽鰯	二四、五〇〇	九、一三七	大阪神戸廣島
鹽鮓	一一、五三〇	五、四一九	全
其他乾魚類	六、四四五	三、一七一	全
其他鹽魚類	六二、〇六〇	二六、二八六	全
合計	—	—	—

鑛山

日平、樺峯の兩鑛山ありて銅の産出多額に上り事業年を逐ふて盛大に起さ爲めに細民に業務を得せしめつゝある利益尠からず且つ日平銅山は明治四十三年より延岡市街に配電所を設置し市中の電燈は勿論其他の事業にも應用せしめつゝありて土々呂にも延長せり其鑛物の産額は明治四十二年度に於て二百二十六萬二千九斤にして七十四萬五千三百五十九圓なり

通信

人事の發達商工業の進歩と共に郵便電信電話等の通信機關の利用頻繁を極むるに至るは自然の數理にして活動する土地の郵便の配達はその差出するものより多額なるを例とす左に延岡郵便局の明治四十三年三月より四十四年二月迄滿一ヶ年の統計を掲ぐ

年月日	振爲		出		拂替		金額
	口數	金額	口數	金額	口數	金額	
四十四年三月分	七五〇	一一五二,五〇五	八〇六	一〇四七,三三〇			
四月分	四〇九	六二〇七	七五	七五	一一八	一一九	一九三
五月分	五三六	五,一五〇	八〇	一五九〇	一四六	一五九〇	一七四九
六月分	四七三	四七,七三三	六八六	一四四六	一二八	一五三	一七〇
七月分	四三〇	四八,〇七九	五七一	一〇九五	一〇五	一六三四	一七三
八月分	四〇五	五,一三六	六四三	一〇一八	一〇八	一七二	一,八三七
九月份	四三二	五〇,六九三	五七六	一〇八五	一〇五	一,二八四	一,三六一
十月分	四三二	四九,四五三	八五四	一四〇五	一四〇	一四六九	一七〇九
十一月分	四三二	四〇,九三	七八	一三四二	一三二	一六〇	一,八七四
十二月分	九,八二	五,一二五	一一七	一六七	一六七	一八〇	二,一六三
四十四年一月分	九,八二	一五七,一四五	七七八	一四八八	一四八	一七〇	二,一八七
二月分	三,五〇五	三九,九九八	六三三	一一五	一一五	一三四四	一,六七三
四十三三年三月	七五〇	一一五二,五〇五	八〇六	一〇四七,三三〇			

交通機關

年月	口數	金額	口數	金額
四月	八〇〇	一四,八四〇	七八二	八,三三一
五月	七四	一一〇,八九〇	七六七	九,四〇六
六月	六六	一一,八三三	七五〇	九,三二一
七月	六五	八,六三二	七五	九,三〇二
八月	七二	一一,二九〇	七六	九,六七七
九月	六五	九,六三三	八四	九,六六六
十月	八三	一一,四〇九	八九	一〇,二八八
十一月	七六	一〇,三七五	八七	一〇,五七六
十二月	九六	一三,九四三	一一〇	一四,〇三六
四十四年一月	七四	一三,九四三	一一〇	一三,六〇九
二月	六六	一一,二七七	八七	一三,〇三三

交通機關としては延岡より土々呂迄二里十二町、富高迄四里二十七町、細島迄五里二十三町、美々津迄八里十二町、都農迄十里三十五町、高崎迄十五里三町、宮崎迄二十二里十二町、都城迄三十七里二十七町にして熊本街道曾木迄三里十九町、瀧下迄七里、宮水迄十一里、三田井迄十五里、熊本迄三十三里、大分街道は熊田迄四里、佐伯迄二十里、大分迄三十一里三町にして何れも馬車人力車の交通自在なり、海路は細島、土々呂の両

港に毎日寄港し、佐伯、臼杵、佐賀關、大分、別府、日出、守江、長濱、高濱、今治、多度津、高松、神戸、大阪及内海、津、鹿児島行の旅客に便なり、細島港よりは沖繩、臺灣、門司、馬關行聯絡切符を發賣せり、別府港以東大阪行の乗客は別府及高濱港に途中上陸し次の便船に乗船の便ありて通用期限は四日乃至六日間なれば見物人湯等に最も便利なり

銀行

當地には株式會社延岡銀行、株式會社日州銀行延岡支店株式會社百四十七銀行派出所ありて遺憾なく金融機關たるの任務を盡しつゝ、あれば商工業者に取らざる不便あるを見ず、各銀行亦た着實可憐を旨とし、且業務に精勵せんと以て何れも健全なる發達を示せり、左に明治四十三年中の金融に關する諸表を掲ぐ、以て資金備用の状況を知るに足る可し、尙金利は時々高低あれば之を略す

延岡銀行

貸出金	七九六四	九四〇圓
諸預り金	一〇三、三三三	二七二
送金取組	四三、六五	〇四〇
送金仕拂	〇五、二二	八〇
荷爲替取組	二〇、五三	一〇
荷爲替取立	八、一三	〇〇〇
取立手形取組	三、三九	九〇
取立手形取立	六、三〇	六〇

日州銀行延岡支店

貸出金	七九、五三三	圓
諸預り金	一七三、八六	
送金取組	五七、五三	
送金仕拂	八三、三三	
荷爲替取組	一三、五二	
荷爲替取立	九、二〇	
取立手形取組	四九、三〇	
取立手形取立	六、四八	

日向木炭同業組合

日向木炭は其産額明治二十五年頃迄は一ヶ年五六十万俵に過ぎざれ共日清戦争當時より價格の騰貴に從て其産額も年々増加し來り、日露戦役より需要の劇増と共に之が價格も亦非常に騰貴し一ヶ年百五十万俵餘を製出するに至れり此の状況を以て將來を推すときは其製炭額二百万俵餘に達するは兩三年に出づるべし仮に炭價一俵平均五十錢と見ても壹百萬圓の重要産業なり、況んや之が製炭額は直接地方下級分助者に普及するを以て地方經濟界に貢獻する所尠ならず依て之が品質及俵裝量目の一定を計り營業上の悪弊を矯正し日向木炭の眞價を發揚し民福を増進するの目的を以て矢野力治、谷五兵衛、田尻藤四郎外數氏發起として明治四十三年三月日向木炭同業組合設置の認可を申請し全七月十二日農商務大臣の認可を得、本部を延岡町に支部を臼杵三田井、見湯郡高鍋町に出張所を各輸出港に設け各村樞要の地に検査員を配置し専ら俵裝量目の一定と品質改善の取締を成したる結果着々其効を奏し京阪市場の大に歡迎する所となり價格に於ても二割方の昂進を見るに至れり明治四十四年度に於て照費貳千五百圓を補助し、奨励を加へたれば、組合としては今や僅かに其端緒を開きたるに過ぎざれ共、造林事業の奨励と同組合の活動と相俟て日向木炭の眞價は益々世に知らるべし

東臼杵郡内地價反別表

(明治四十二年末現在)

地目	反	別	地	價	地	租	筆	數
田	五、八二五	町		一、六〇八、六〇六圓		三、九七三圓		一、五〇〇克
畑	六、二五五			三、九七三〇		三、八七五		一、三四、四六一
郡村宅地	八二克			一、七、五五六		一、四、二六一		二、六七五

市街	一五五	一九三九	三、八七
宅地	二〇	二、〇二	九五
鹽田	二〇七六	一九三、八三〇	一〇、六〇五
山林	九、八六六	一八、一六四	九、九九
原野			二、四五九

惣ヶ内鏡泉

南方村惣ヶ内にあり延岡より三田井街道二里余の所にて定期馬車の便あり一時間余にて達す、幽秀閑雅、殊に梅、桃、櫻等の名所に於て四時々の風景に富み静養地として最も適當なり、同鏡泉の發見は明治二十年頃なりしが明治四十一年山林の子爵内藤家の所有に属するに至り浴場及人湯者の宿泊に満つべき家屋敷棟と新築、専ら入浴者の便利を圖りつゝあるが皮膚病等には不思議の特効あるを以て毎日五六十人の浴者比に非らざれば還からず其面目と一新すべし、止宿料の如きは規定なきも大略次の如き等級にて分るべし、一



絶へず日用品の販賣店もあり好評噴々たり  
**旅館**  
 商工業の繁榮發達と共に來往の旅客益々頻繁を加ふることなり當地の旅館も稍々發達し來るが未だ其完全なるもの少しと雖も各其業者に於ても旅客の取扱に留意し設備に改善を加へて江湖の満足を買ふ事に苦心せるを以て昔日の

東海尋常高等小學校  
 (24)

大阪商船株式會社日向航路乗客賃金表

等一圓廿錢、二等一圓、三等八十錢、四等六十錢、五等四十錢にして當地は未だ一泊三食の極めなり、而して重なる旅館は龜城館、菊地、吉野屋、日野屋(以上延岡)日高、關本(以上細島)等なり

細島	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、三〇〇	〇、二〇〇	〇、一〇〇	〇、〇〇〇
土々呂	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、三〇〇	〇、二〇〇	〇、一〇〇	〇、〇〇〇
佐伯	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、三〇〇	〇、二〇〇	〇、一〇〇	〇、〇〇〇
臼杵	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、三〇〇	〇、二〇〇	〇、一〇〇	〇、〇〇〇
佐賀	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、三〇〇	〇、二〇〇	〇、一〇〇	〇、〇〇〇
關	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、三〇〇	〇、二〇〇	〇、一〇〇	〇、〇〇〇
大分	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、三〇〇	〇、二〇〇	〇、一〇〇	〇、〇〇〇
別府	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、三〇〇	〇、二〇〇	〇、一〇〇	〇、〇〇〇
日出	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、三〇〇	〇、二〇〇	〇、一〇〇	〇、〇〇〇
守江	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、三〇〇	〇、二〇〇	〇、一〇〇	〇、〇〇〇



赤水港に鯛の豊漁

○ 夕風は氷山浮ぶ北極の  
島のはてより吹くとし覺ゆれ。  
余りに月の明かなるまゝ、城山にかけのぼりてう  
たへる

○ 幸うすき君をししのふ君もまた  
千草のもとにこの月やみん。  
今山八幡の櫻盛れる折友を杖をひきて  
姫たちのやはらやなしき  
御手ならば折られても笑め山櫻花。

○ 山寺のかねのひいさも  
かすかなりはのくく白じ花のあかつき。

延岡吟

坂本春汀

一 特別一等運賃ハ一等運賃ノ外別ニ特別  
室使用料トシテ神戸門司間金拾圓  
神戸又ハ門司ト基隆ノ間ハ金貳拾圓  
ヲ要ス

一 乙種二等ハ笠戸丸ノキナリ

	神戸	
	甲種一等	乙種二等
門司	三.〇〇	二.〇〇
基隆等級	一.〇〇	一.〇〇

馬車一人賃延岡町より

土呂	十八錢美々津
門川	廿九錢高鍋
富高	四十錢宮崎
細島	五十錢熊田

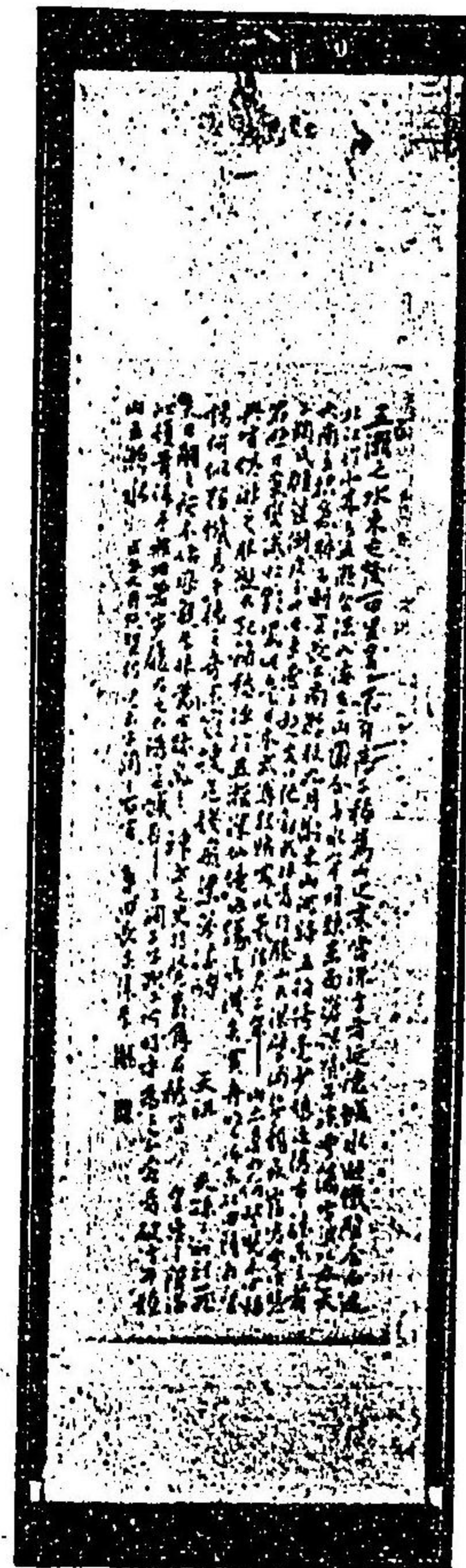
	大阪	又( )	神戸
	二.七〇	四.〇〇	三.六〇
大連等級	一.〇〇	二.〇〇	一.八〇
	片道	片道	片道

長濱	一.〇〇
高濱	一.〇〇
今治	一.〇〇
津	一.〇〇



師 英 哲 田 松

北郷村宇納回全長寺住職曾洞宗示初所長



南方村 甲斐長藏君藏



尊藏地間納宇村郷北

## 營 業 種 目


- ◎ 新聞雜誌印刷
- ◎ 各種活版印刷
- ◎ 石版彫刻及印刷
- ◎ 寫真製版及印刷
- ◎ コロタイプ印刷
- ◎ 洋式諸帳簿
- ◎ 各種製本
- ◎ 活字鑄造

熊本市  
上通町  
**九州日日新聞社印刷部**



〔切一頁寫行流今古〕

◎最新なる原料と撰み時好と流行とに後れざるは本館の特色なり



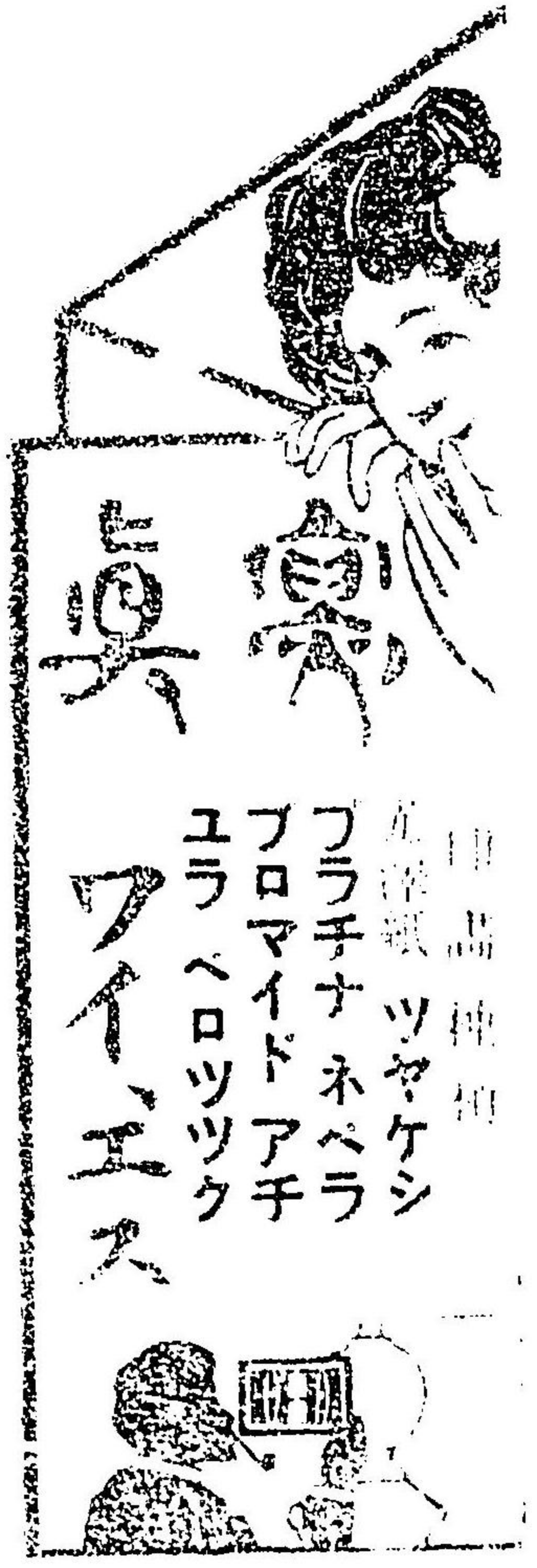
印畫種類  
 光澤紙、ツヤケシ  
 プラチナ、ネベラ  
 プロマイド、アチ  
 ユラ、ペロツツク  
 ワイ、エス

◎儀式祝典紀念其他火急撮影の需めに應ず

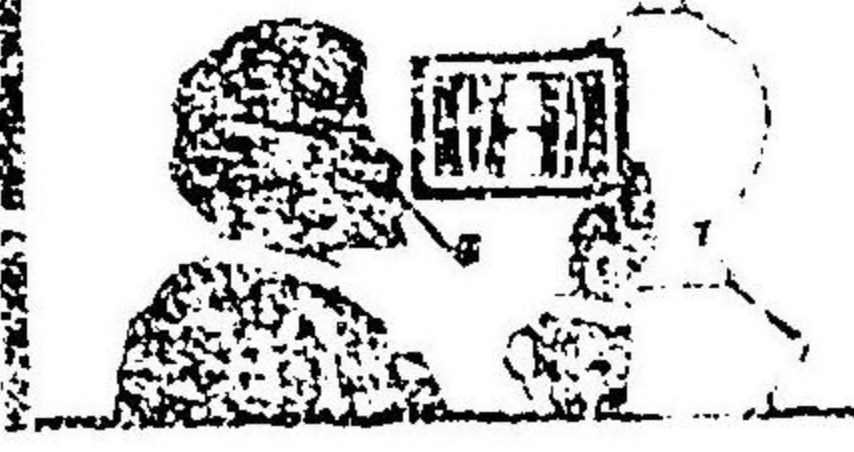
町原川岡延向日

第一頁寫行流

最新式之原野之機、時好、流行、之後、又、三、本、館、其、也、



眞 寔  
田嶋 種雄  
五、澤、順、ツ、ヤ、ケ、シ  
フ、ラ、チ、ナ、ネ、ベ、ラ  
フ、ロ、マ、イ、ド、ア、チ  
ユ、ラ、ヘ、ロ、ツ、ツ、ケ  
ワ、イ、エ、ス



儀式祝典、紀念、其他、火急、振、影、の、活、の、地、

明、室、川、岡、延、向、目

縣參事會員 田尻藤四郎君贊助  
西臼杵郡長 岡田純夫君贊助  
高千穂村長 佐藤平次郎君贊助

# 田代秀資編 高千穂案内記

◎日州新聞曰ク(二月十七日)高千穂案内本月十五日發行にして編者は田代秀資氏紙中  
收むるに三田井界限に於ける知名の士數氏の寫眞版等あり小冊紙なれ共同地に遊ばん  
とする者の好伴侶たるを失はず。西臼杵郡三田井和田千榮堂發行  
◎佐伯新報曰ク 高千穂案内(田代秀資編 定價廿錢)日向國西臼杵郡三田井和田千榮堂  
發行)予明治四十年三田井に遊びし事あり本誌を繕くに至つて愈々舊想を新にせり世人  
多く風致を語らんと欲せば先ず本誌一讀の上高千穂の絶影と古跡とに按すべし窓ノ瀨の  
風致に至りては筆の及ぶ所には非ざるなり

所 行 發

## 和 田 千 榮 堂

◎弊館は延岡市街の中央南町四通八達の場所にある最も便利  
よき旅館にして電話は二十一番なり

◎弊館は最近に三層樓改築落成し客室寐具其他諸器具の清潔  
にして最も居心地よき旅館なり

# 菊池旅館

◎弊館の三層樓より望めば遠く洋々たる日向灘に白帆の走る  
を見丸ヶ島愛宕公園龜井の舊城可愛嶽其他高千穂の諸峯は  
眼下に集まり筆舌に盡し難き景色なり

◎來客に對して懇切丁寧なるは弊館の特色なり

## 宮崎 毎日新聞

(代價一ヶ月參拾錢)

◎宮崎毎日新聞は不偏不黨、實業機關を以て自任し産業の  
振興、文化の啓發を主眼とす。

◎宮崎毎日新聞は議論明快、報道迅速にして抱負遠大、生氣  
躍如たり。

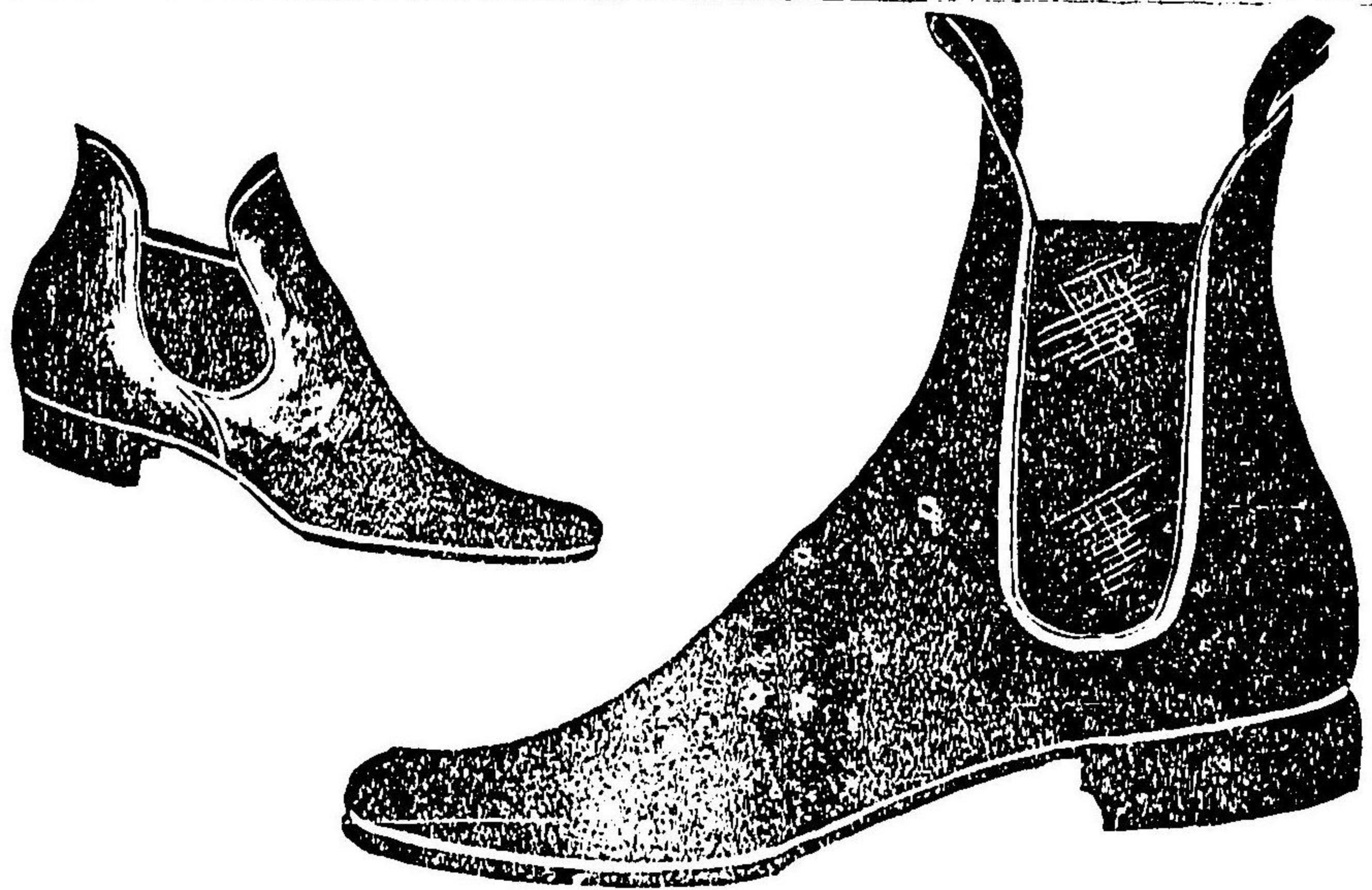
◎宮崎毎日新聞は毎號、小説講談を掲げ記事豊富にして趣  
味横溢、光彩陸離たり。

宮崎縣宮崎町

發行所 宮崎毎日新聞社

延岡支局

延岡町船倉



*Nakamura Sei.*

實  
中村  
幸吉

歐 靴 鞆 製 造  
米 各 馬 具 販 賣 商  
日 向 延 岡 中 町

一 鏡 前 屋 電 略 ナ カ

諸官衙公署員の御便利を計  
り月賦拂にて製靴の御注文  
に應申候

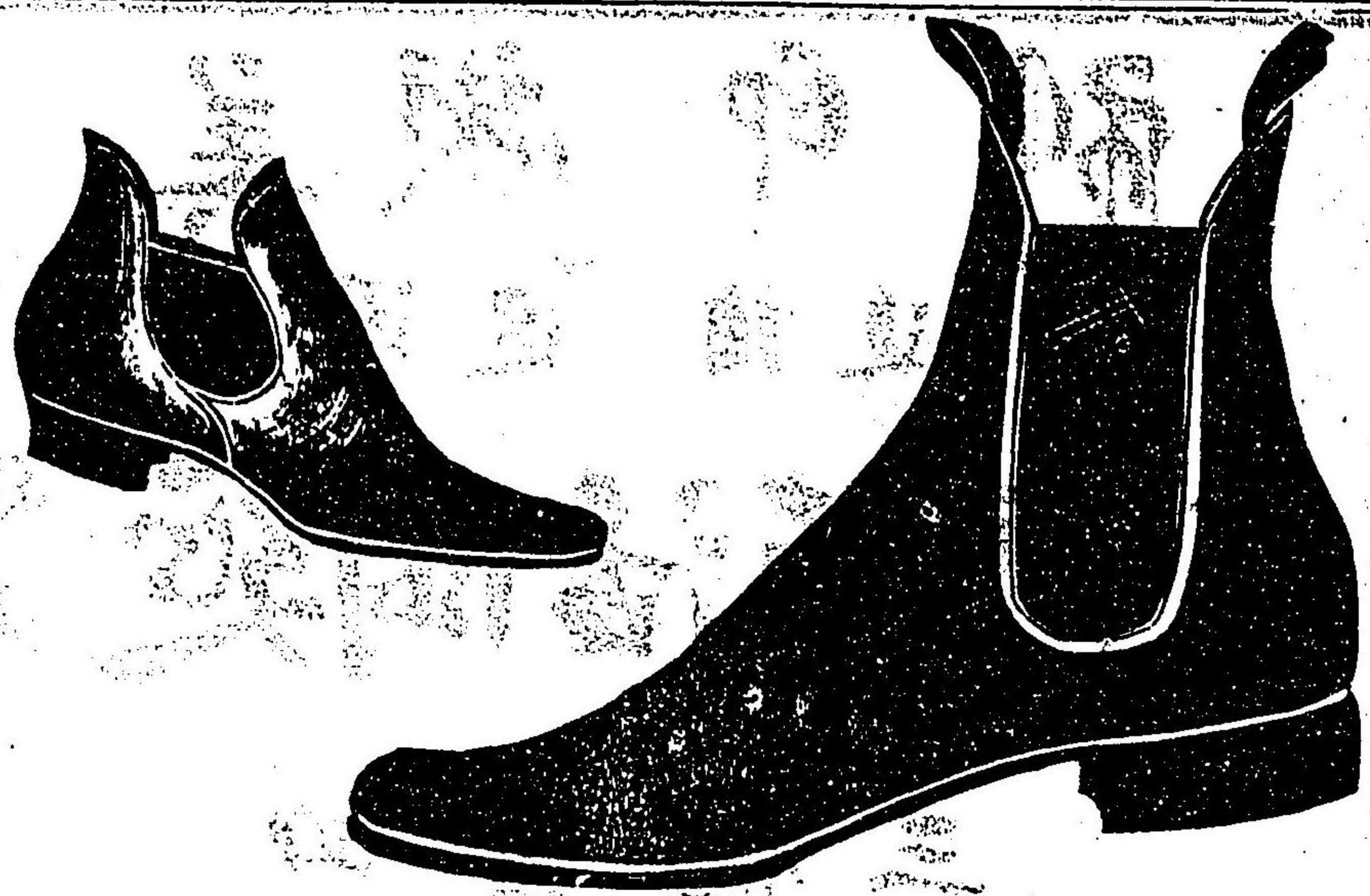
日向延岡  
石 輕溪石

硯

日向延岡石原所

硯師 原口梅羊

弊堂調製の分は裏面に必  
ず「梅羊」の文字彫刻あれば  
特と御認めの上御買求の榮  
を賜り度候



*Nakamura Sei.*

歐米各國

靴鞆製造

馬具販賣

商

日向延岡中町

實  
中村  
金吉

(筑前屋) 電話(ナカ)

諸官衙公署員の御便利を計

り月賦拂にて製靴の御注文

に應申候

株式會社

日州銀行延岡支店

電話 五番

美 瀨 印 刷

迅速 請 追

延岡 活版所 延岡

四倉 德三

(電話 五十五番)

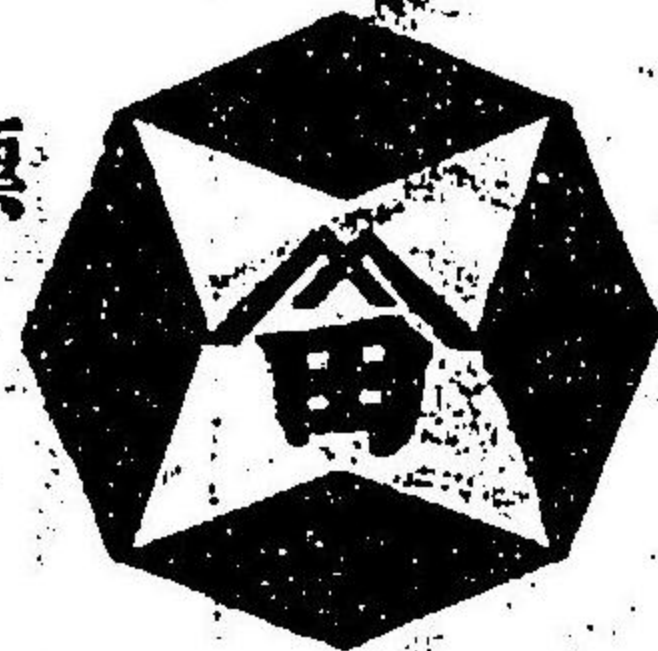
國 產 今日向半紙

於各博覽會共進會賞狀數多受領

宮崎縣東臼杵郡恒富村

製紙元 四倉 德三

標 商



◎本品は勅甲製にして座用旅行用として最も實用に適する良品なり

◎本品は正紺染にして精巧緻密なる裁縫を施したるものなれば變色等の憂なき良品なり

# 特製 鴉袋

◎本品は他に比類なき安價にして全國到る處の

呉服店、雜貨店に販賣せり

◎拾足以上の御注文に對しては小包料弊店負担にて直ちに送付す

製造元

田淵商店

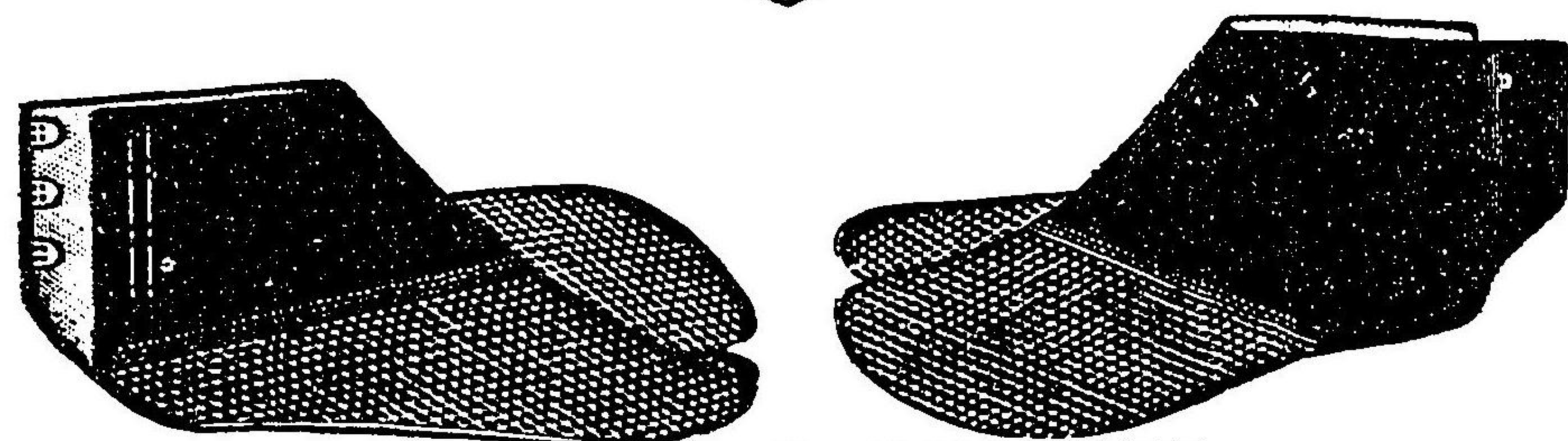
岡

延

中

南

町



◎本品は初甲製にして座用旅行用として最も實用に適する良品なり

◎本品は正紺染にして精巧緻密なる裁縫を施したるものなれば變色等の憂なき良品なり

特製 進歩袋

製造元 田淵商店

◎本品は他に比類なき安價にして全國到處の呉服店、雜貨店に販賣せり  
◎拾足以上の御注文に對しては小包料弊店負担にて直ちに送付す

岡 延 中 南 町

滋養 御菓子調進所

佐々木商店

美濃 紙函

身帯婦人用、夜類、学校用、厚紙、類、應市、好調進仕供

清水製菓堂  
電話 夜七十七番  
電話 日六十七番

時電 話 番 六十七  
日電 号 番 (イサ)





高松市下津製煙所  
軍人印多特約店

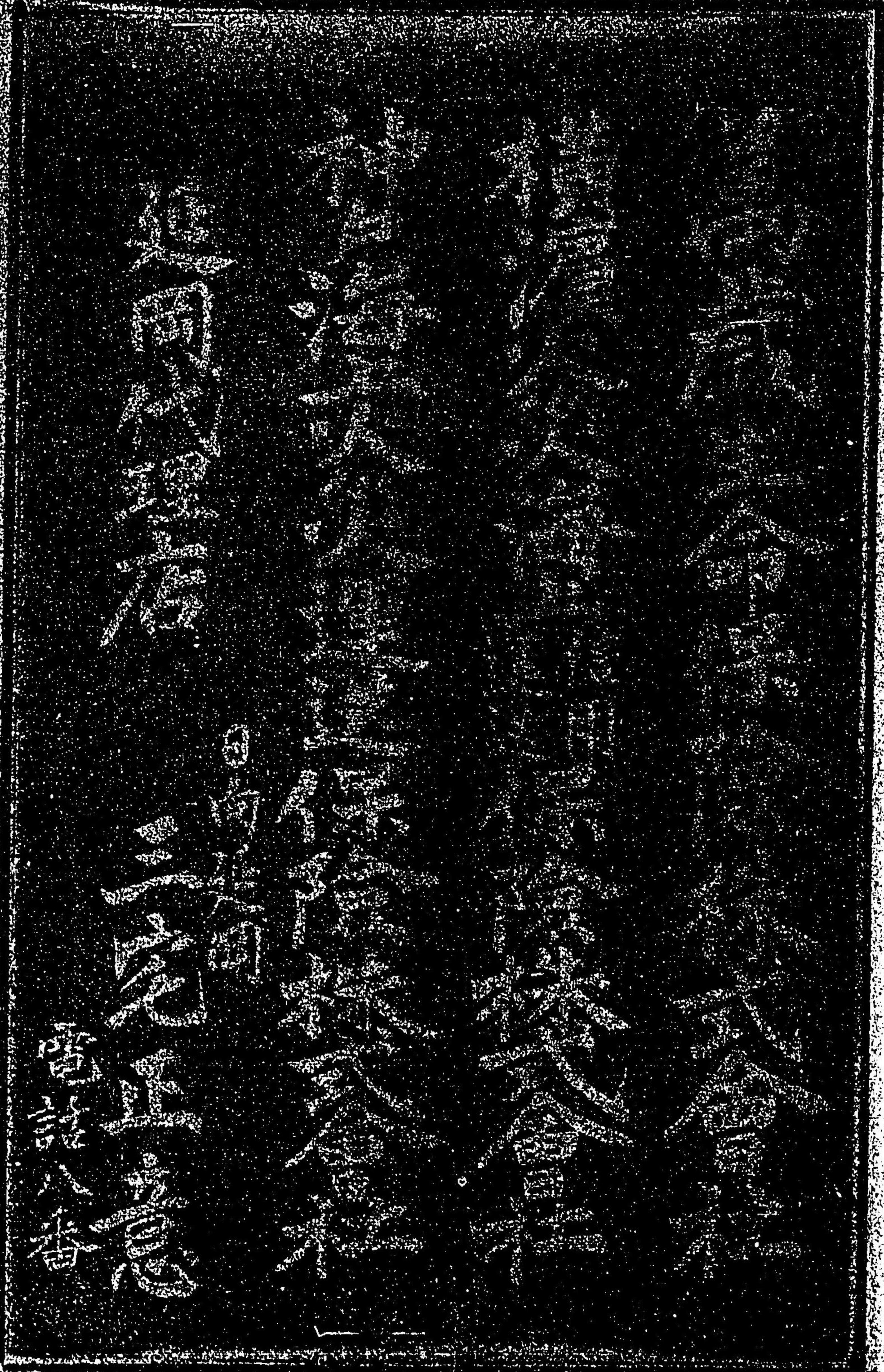
小間物文具却高

熊

延岳柳沢

小笹熊二郎

(電話五十一番)





高松市下津製煙所  
軍人印多千特約店

小間物文具卸商

延岳柳沢

熊 小笹熊一郎

(電話五十一番)

萬歲生命保險株式會社

橫濱火災海上保險株式會社

神戶海火災運送保險株式會社

延岡代理店

三宅正意

日向延岡

電話八番



高松市下津製煙所  
軍人印多千特約店

小間物文具却高

熊

延岳柳沢

小笹熊二郎

(電話五十一番)

熊笹文具店  
高松市下津  
電話八番



毛筆製選  
金野  
祖元

日向  
延陵通信社

れろし

小賣

職人ハ東京及廣島ヨリ召聘シテ  
レバ希望ニヨリテハ製筆等ノ  
傳習ニ應ス

特約販賣ハ

延陵通信社

代理部

品類ヲ精撰シテ至極安價  
ニテ取引ス



萬物高

日向延陵郵便局寄

夫也

高萬見七郎商店

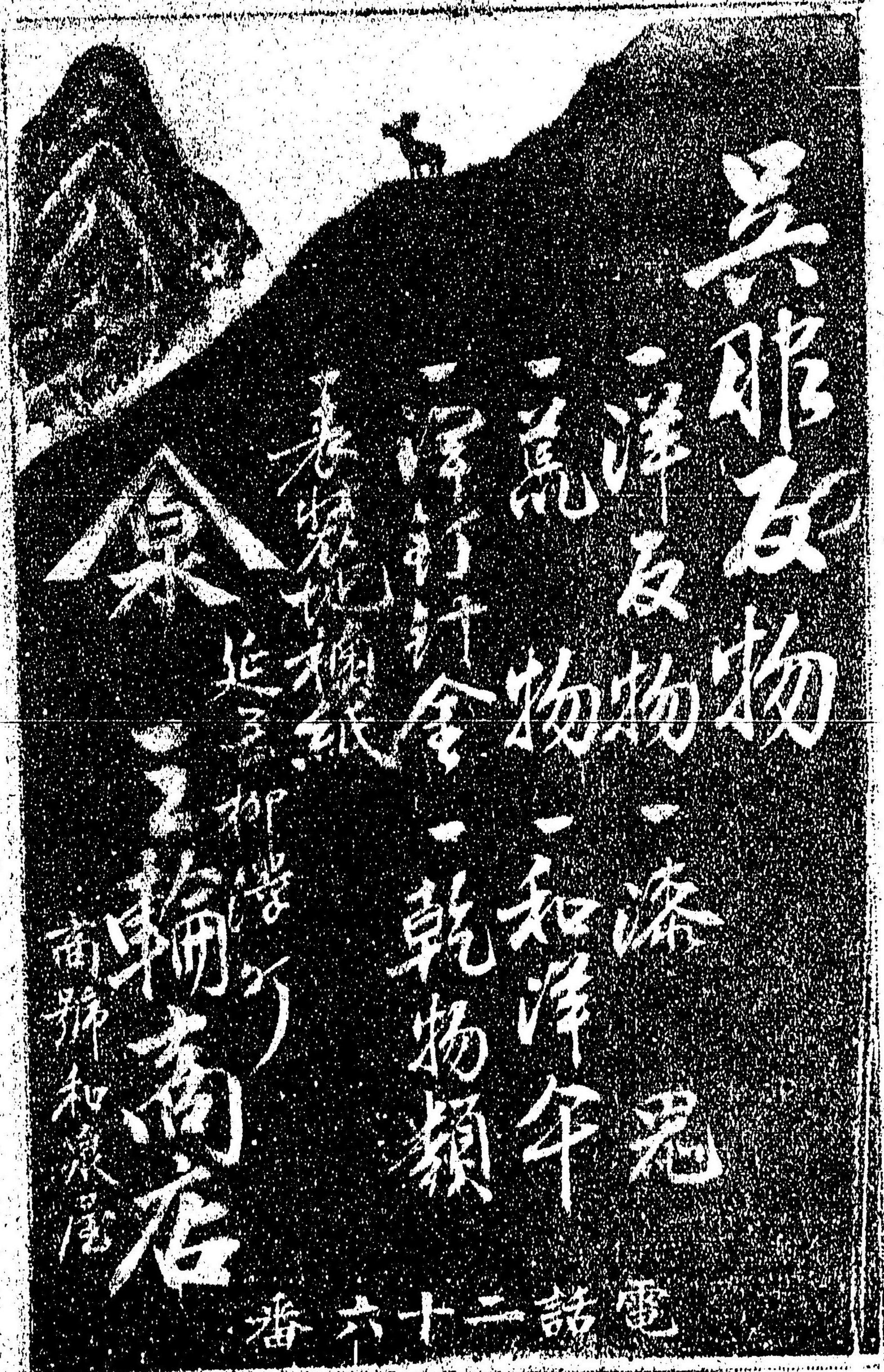
御旅館

糸織城靴

延喜坊外

見玉ヒツナ

(電話六番)



吳那反物  
 洋反物  
 萬反物  
 洋反物  
 漆  
 冠  
 知洋傘  
 乾物類  
 輪商店  
 商號和洋屋  
 延喜坊外  
 糸織城靴  
 御旅館  
 電話二十六番

御旅館

糸

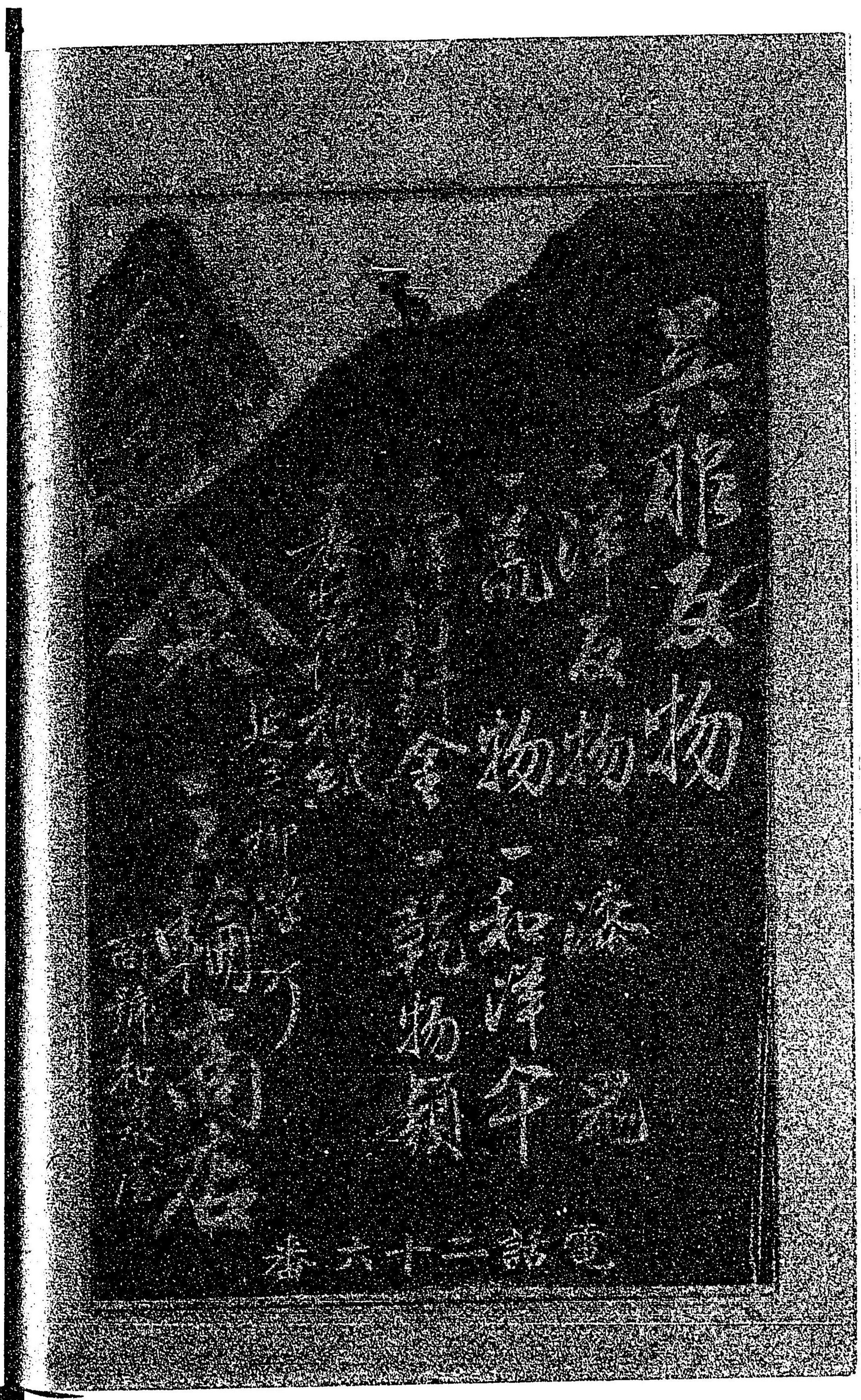
城

鼓

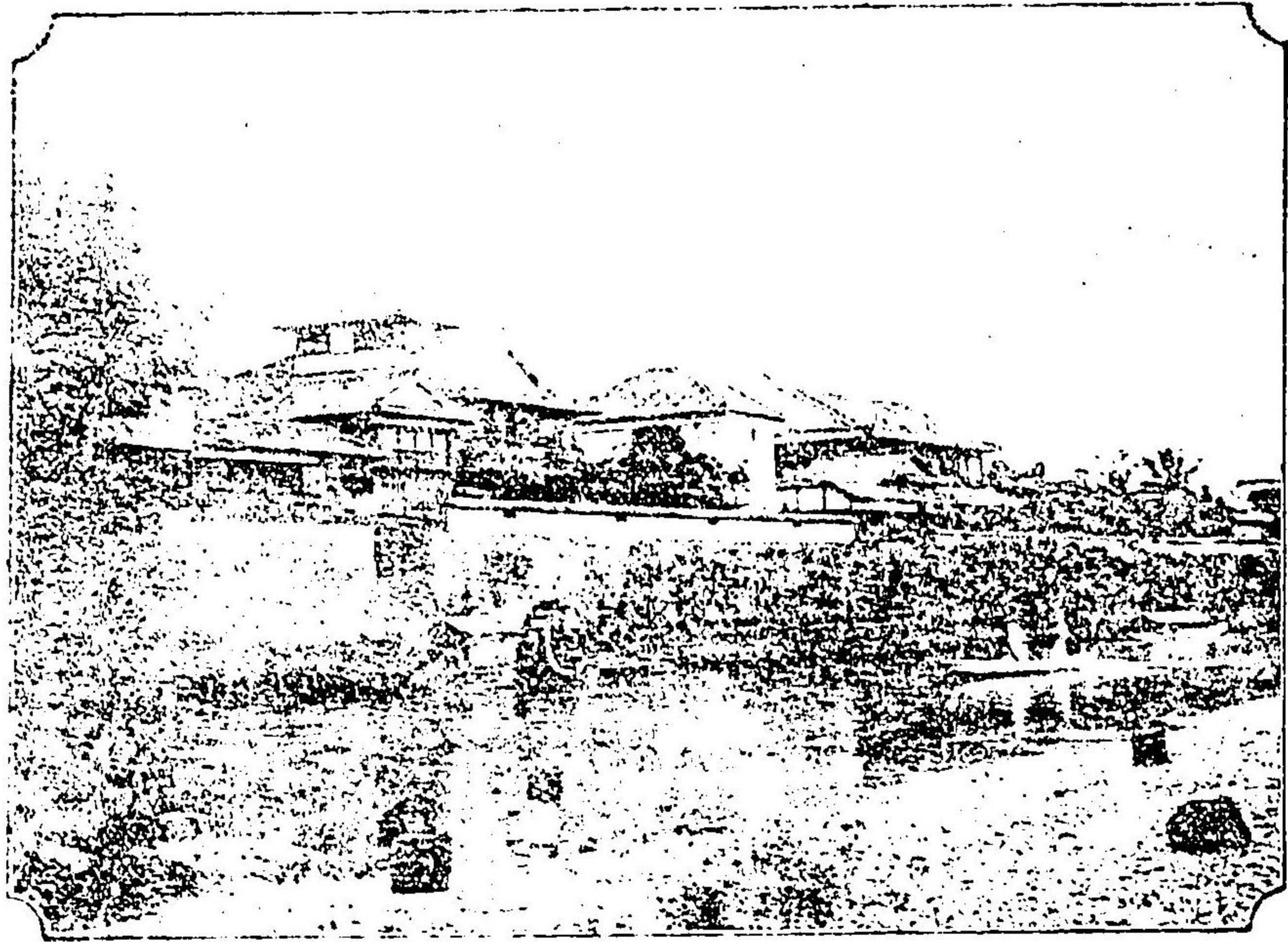
延喜拾遺

見玉ヒツ

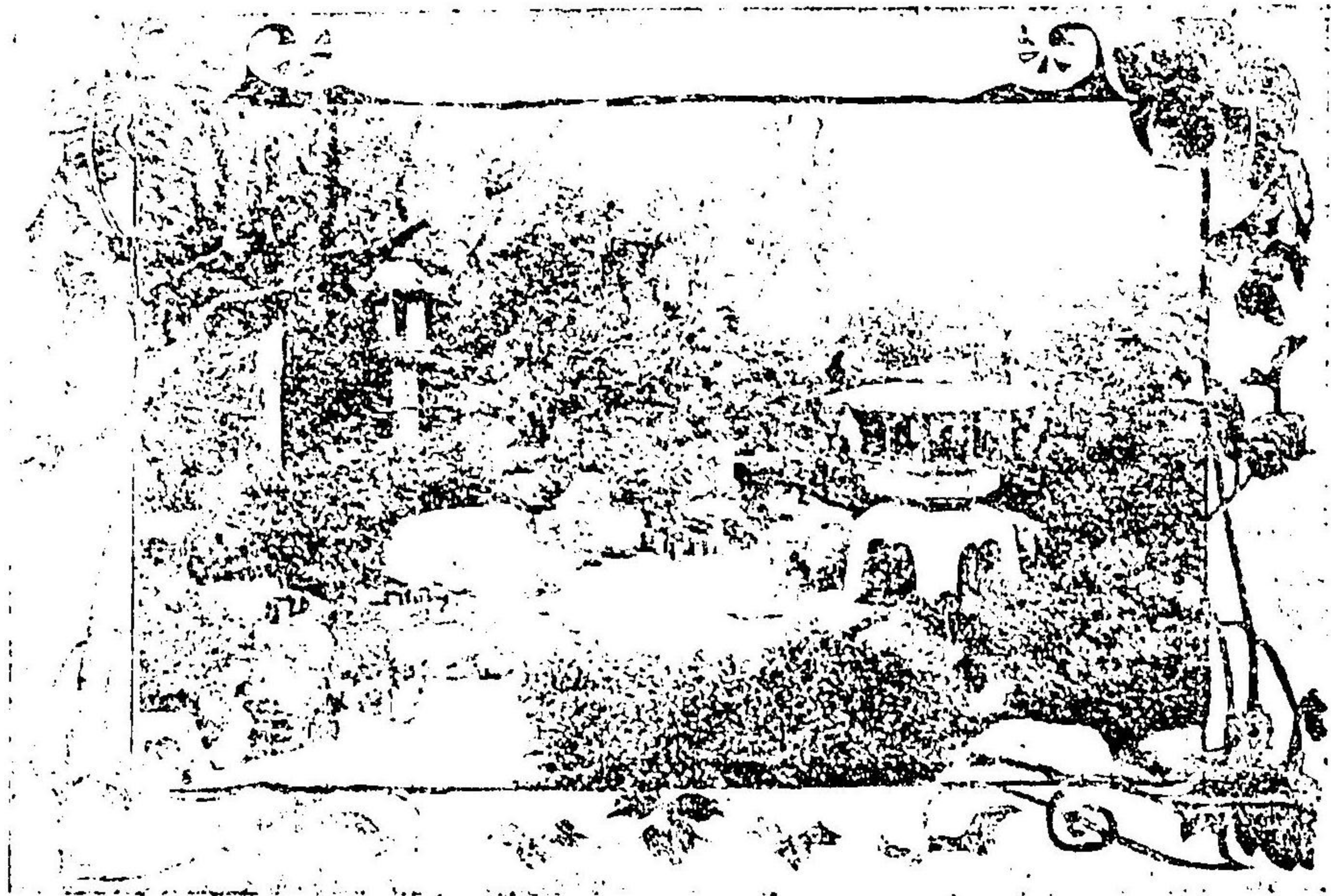
(電話二六番)



卷六十一話電



邸本氏吉仲ぶるた見りよ岸川の瀬ヶ丘



邸一の園庭耻別氏吉仲谷

精肉

果菜

水

穀菜

吉野家

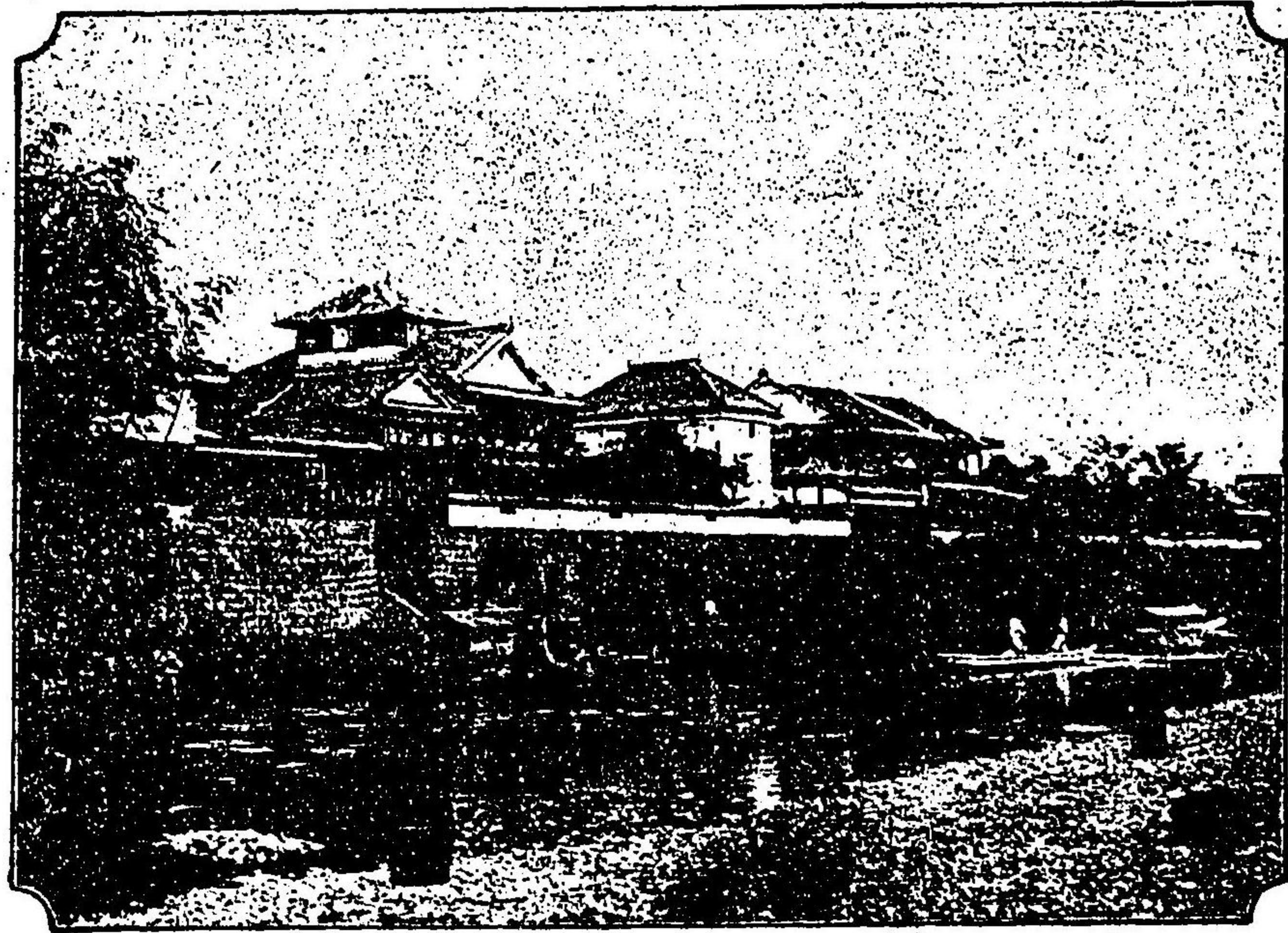
延喜中(可後陽在)

建築請負  
唐箕万石  
建物類

萬指物所

延岡南界

清密互場



五ヶ瀬川の岸より見たる谷仲吉本邸



谷仲吉別荘庭園の一



歐米  
流行

洋服高  
管洋服店延岡支店

大分細工町(電話三三番)

延岡南町(電話零九力)

歐米  
式

時計

自精車

高

小倉時計輔

特電話(六五番)



影下子敷賣

延岡中町

株式  
會社

延岡銀行

電話六番

代 田 香  
 秀 貞 編  
 資 利

延岡案内記

富高文華堂發行

紙 墨 筆 具 文 米 器  
 諸 墨 筆 具 文 米 器  
 商 却

文華堂

學校諸官署  
 御注文調進所

日向延岡町

303  
367



明治四拾四年五月參日印刷  
明治四拾四年五月拾日發行

延岡案內記第壹版

定價金參拾錢

不許復製

編纂者	田代秀資
發行者	宮崎縣東臼杵郡延岡南町五百四十四番地 富高傳藏
印刷者	宮崎縣東臼杵郡延岡中町六番戶 西村米藏
印刷所	宮崎縣東臼杵郡延岡中町六番戶 西村活版所
發行所	延岡南町 富高文華堂

# 歐米雜貨密



旗印ホワイトシャツ

。カラカウス。

頭髮ベジリン香水。

舶來競馬石鹼。

特許 エンゼル香油。

特約販賣

延岡北町

Ⓜ 二葉屋

電話(七十一番)